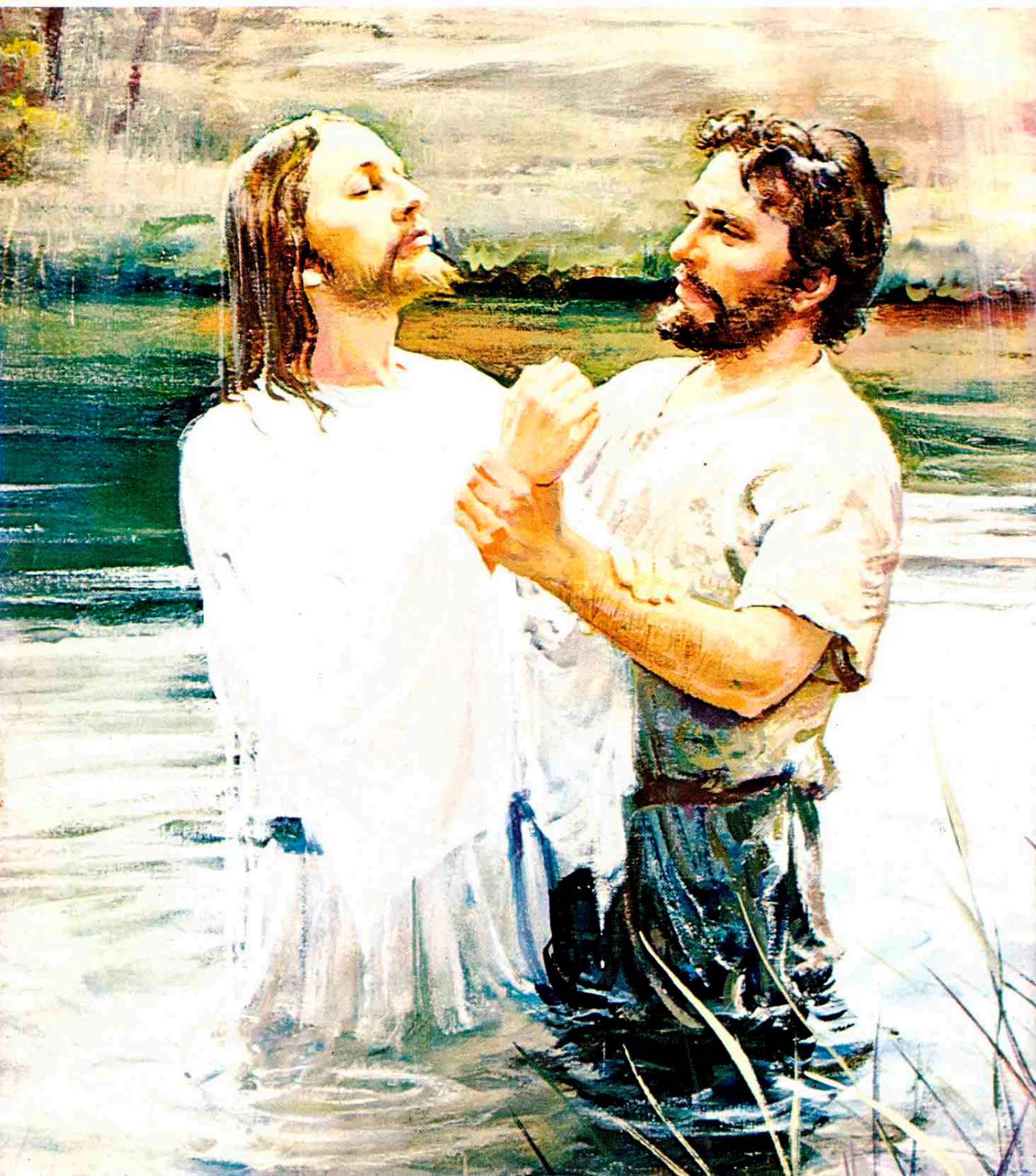






心の糧

十二使徒評議員

ゴードン・B・ヒンクレー

主は非常に多くの事柄に関して、我々に勧告と戒めを与えておられるので、この教会の会員はいつもあいまいなことを言う必要がない。主は以下のことに於いて我々に指標を確立して下さい。すなわち個人の徳行、隣人への態度、律法への従順、政府に対する忠誠、安息日の遵守、禁酒禁煙、什分の一その他の献金、貧しい人の世話、家族の教化修養、福音を伝えることなどである。

そのいずれにおいても、議論や論争をする必要はない。もし我々は日常、宗教の実践において、着実な道をとるならば、他のいかなる方法によるよりも、よりよくことを進めるであろう。

我々を誘って去らせようとする人々があり、悩まそうと企てる人々もあろう。我々は見下げられ、けなされるかもしれない。また、激しく責められ、世の人々の前にあざけられるかもしれない。

教会の内外共に、神のみが持たしたもう権威を奪う特権が、あたかも我々にあるかのように何かにつけて、我々の教会における立場を変えることを強いる人々がある。我々は平和の福音を教えており、他の人々と争う気持は毛頭ないのである。しかし、我々は予言者として支持した人々を通じて与えられる主の言葉を棄てることはできない。

ここでピューリッツァー賞を受けた歴史家、バーバラ・タッチマンの言葉を引用しなくてはならない。「これは私の信じていることである。これは私のしょうと思うことであり、あれは私のすまいと思うことである。これは私の行動の掟であり、あれはそれにはずれるものである。」(「失なわれゆくもの——勇気」, マッコール1967年6月, P28)

—— も く じ ——

予言者のことば

戒めを守るべきである……………大管長	ジョセフ・フィールディング・スミス………… 1
バプテスマの年齢はなぜ8才か……………C・N・オットセン………… 3	
よくない結婚7つの危険信号……………リンゼイ・R・カーティス………… 7	
神会の真の知識……………リチャード・C・コワン…………12	
約束を守る……………デビッド・ローレンス・マッケイ…………14	

管理監督のページ

国を愛する心……………管理監督	ジョン・H・パンデンバーグ…………15
汝自身を知れ、汝の友を知れ、神を知れ……………キャサリン・ピーターソン…………17	
ほんとうの生きる喜び……………イレイナ・ルイス・バーバー…………20	
証の力……………マーク・E・ピーターセン…………22	
求めよ、そうすれば与えられるであろう……………ジョアン・A・ウォンドラ…………23	
一兵士の祈り……………カーラ・サンソン…………25	
伝道部だより……………	26

子供のページ

わたしはわたし……………ロザリンド・R・ドラパー………… 1
ひいおじいさん マクドガルのバッグパイプ……………ロザリー・W・ドス………… 2
石あそび……………ペギー・ジェイゼル………… 4

1月のこよみ

- 5日
1831年ミズーリ州において、最初のインディアンのための伝道部開設さる。
- 7日
1876年メキシコ伝道部へ初の伝道宣教師着任。
- 8日
1805年オルソンハイド コネチカット州オクスフォードに生まれる。
- 14日
1847年ブリガム・ヤング、モルモン大移動の啓示を受ける。
- 18日
1827年ジョセフ・スミス、エマ・ヘイルと結婚する。
- 19日
1827年聖徒らにノーブー神殿建設の命が与えられる。
- 22日
1854年タヒチ伝道本部、デビッド・O・マッケイにより献堂さる。
- 27日
1852年モルモン経ハワイ語に翻訳さる。

今月の表紙

イエスが「宣教をはじめられたのは、年およそ30才の時であって……」(ルカ3:23)ナザレを離れて、谷間に降りていかれた。そして「ヨルダンの向こうのベタニヤで、イエスはバプテスマをうけられた」(ヨハネ1:28)イエスは濁った流れのゆるやかなヨルダン河にバプテスマをうけるために降りていかれた。「イエスはバプテスマをうけるとすぐ、水から上がられた。すると、見よ、天が開け、神の御霊がはとのように自分の上に下ってくるのを、ごらんになった。また天から声があって言った。これはわたしの愛する子、わたしの心にかなる者である」(マタイ 3:16-17) 今月の表紙はイエスのバプテスマの情景をあらわしている。絵の作者はハリー・アンダーソンで、これは訪問者センターに展示されている。関連記事「バプテスマの年齢はなぜ8才か」を参照。

戒めを 守るべきである

大管長

ジョセフ・フィールディング・スミス



ジョセフ・フィールディング・スミス

大管長

「もしあなたがたがわたしを愛するならば、いましめを守るべきである」(ヨハネ14:15)

これらの言葉を、主はその死の数時間前、過ぎ越しの食事をするために集まっていた弟子たちに語られた。

主は続けて述べておられる。『わたしのいましめを心にいだいてこれを守る者は、わたしを愛する者である。わたしを愛する者は、わたしの父に愛されるであろう。わたしもその人を愛し、その人にわたし自身をあらわすであろう』イスカリオテでない方のユダがイエスに言った『主よ、あなたご自身をわたしたちにあらわそうとして、世にはあらわそうとされないのはなぜですか』イエスは彼に答えて言われた『もしだれでもわたしを愛

するならば、わたしの言葉を守るであろう。そして、わたしの父はその人を愛しまた、わたしたちはその人のところに行って、その人と一緒に住むであろう。わたしを愛さない者はわたしの言葉を守らない。あなたが聞いている言葉は、わたしの言葉ではなく、わたしをつかわされた父の言葉である』(ヨハネ14:21-24)

我々は、真理の中で人に自由を得させ、我々を確立してくれる教会の会員である。この教会には主のみ言葉があると宣言されてきた。そこで我々はみな永遠の生命に至るために、主の戒めを守り、誓約をし、義務と責任を自ら引き受けるという望みをもって、バプテスマを受けた。我々が古えの予言者の言った「世のもの」(ヨハネ17:14)からはなれて

とたび集められた後に、もし今いかなる理由にせよ、心中に悪魔を入れさせて真理と互いの愛を破壊するとしたらそれはまことに悲劇であろう。もし我々が主を愛するならば主の戒めを守るであろう。

もし主の戒めを守ることに反対したり守れない者があるとすれば、それは彼らが主を愛していない証拠である。我々は戒めに従わねばならない。我々は心をつくし、勢力をつくし、思いをつくし、体力をつくして主なる神を愛することを、我々の行ないにより示すのである。また我々はイエス・キリストの御名によりて神に仕え、己れのごとく隣人を愛するのである。(教義と聖約59：5-6参照)

これこそ、イスラエルの導きのため近代にあらわされたままの主のみ言葉である。我々はすべての同胞に対して心中に愛をみたますべきである。我々が主の戒めに従っている限り、同胞が教会員であろうがなかろうが彼らに憎しみを抱くはずはない。我々には不平を言ったり、あらさがしをしたり、それがだれであろうとも、我々の兄弟をだめにしてしまう権利があるだろうか。我々は国や州や市の単なる市民、友人ではなく、兄弟姉妹なのである。

「わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい」(ヨハネ13：34)「新しいいましめ」と言ってもそれは他の戒めと同様に永遠に等しいほど古いものである。その戒めが存在しなかったことも、救いに必要でなかったこ

とも決してないが、つねに新しいのである。それは真理であるゆえに決して古くならない。

教会が組織されてすぐに、主は教会に「始めよりありしところの新しき且つ永遠の誓約」(教義と聖約22：1)を与えたと言われている。これらは非常に意味深い言葉である。それは新しき且つ永遠の誓約であったけれども、つねに存在し、始めよりありしところのものであった。そこでこの互いに愛しあうべきであるという新しい戒めは始めよりつねに存在していたのである。真理は古くならない。愛の原則は過去、現在、また未来においても全く同じである。もし私が永遠の真理であるその原則に従わなければ、その時私は主の御前に罪の宣告を受け、主とは何の関係もないのである。

イエスは言われた「もしだれでもわたしを愛するならば、わたしの言葉を守るのである。そして、わたしの父はその人を愛し、また、わたしたちはその人のところに行って、その人と一緒に住むであろう」(ヨハネ14：23)我々はその意味をよく理解しているであろうか。

喜んで主の律法に従い、戒めを守るこの教会の会員になされる偉大な約束は、天の王国に所をえるだけでなく、天父と御子にまみえるということである。またそれだけではない、なぜなら、主はその持ちたもうすべてのものを彼らに与えることと約束されているからである。教義と聖約84章にこの真理がはっきりと載せられている。

「およそ忠実にしてわが今語れる二つ

の神権を得、而してその天よりの召を全力を尽して遂行する者たちは『みたま』により聖められてその肉体再新さる。これらの者はモーセの息子たちとなり、アロンの息子たちとなり、アブラハムの子孫となり、また教会員にして王国の民となり神の選民となる。主は言う、またすべてこの神権を受け入る者は、われを受くるなり。そは、わが僕らを受け入る者はわれを受くればなり。また、われを受け入る者はわが父を受くるなり。而して、わが父を受け入る者はわが父の王国を受くるなり。この故にわが父のもてるすべては彼に与えらるべし。而してこは神権に属ける誓詞と誓約によりて然るなり」(教義と誓約84：33-39)

もし我々が主の戒めを守るならば、天父と御子にまみえる喜びを得、天父の王国を受け、我々の長兄と共同の相続人として神のゆずりを受けるであろう。(ロマ8：17参照)

喜んでバプテスマの水をくぐり、主の律法に従い、戒めを守るすべての末日聖徒に対する主の祝福はなんとすばらしく偉大なものであろうか！

主を愛そうではないか、これはすべてのことの基であり、第一の戒めなのだから。第二の戒めもまた同様に己れのごとく隣人を愛することである。(マタイ22：37-39参照)そして我々はそれを成した時、律法を成就しているであろう。なぜなら成し終えずに残るものは何一つないからである。愛する兄弟姉妹を主が祝福したもうように。主への奉仕に一致団結して立とうではないか。

バプテスマの年令は

なぜ8才か？

C. N. オットセン

キリストはニコデモに「だれでも新しく生れなければ、神の国を見ることはできない」とはっきり語られ、さらに「あなたがたは新しく生れなければならないと、わたしが言ったからとて、不思議に思うには及ばない」と述べられた。（ヨハネ 3：5, 7）悔改めとバプテスマは、イエス・キリストの教会へ入るために必要である。それらはすべての人が罪のゆるしを受け、聖霊を受けるにふさわしい者となり、神の王国の一員となるために通らねばならない門である。（使徒 2：38, II ニーフエイ 31：17参照）

キリストがご自身のバプテスマに当ってヨハネに「今は受けさせてもらいたい。このように、すべての正しいことを成就するのは、われわれにふさわしいことである」と言われたように、この命令はすべての人に向けられたものである。ただ1つの顕著な例外は、幼児に関してである。キリストは「幼な子らをそのまゝにしておきなさい。わたしのところに来るのをとめてはならない。天国はこの

ような者の国である」と言われた。（マタイ 19：14）そして救い主は手を彼らの上に置いて祝福された。予言者モルモンは「幼児は悔改めをすることができない。……そして、幼児はバプテスマを受けなくてはならぬと言う者はキリストの憐みを拒み、キリストの身代りの贖罪と救いの効果とを否定する者である」と述べた。（モロナイ 8：19-20）このモルモンの言葉やこれに関する同じような聖句は、幼児が成長し善悪をわきま自分の行いに悔改めができ、責任をとることのできる時まであてはまる。善悪を区別しまた自己の行動に対し責任を知り始める年令に成長する時まで適用されるものである。幼児がこの年令に達したら、神の王国に入り、キリストの教会の会員になるために「水と霊とから生れ」なければならないのである。

バプテスマはすべての人に命ぜられているとキリストは述べられたが、これは幼児はバプテスマを受ける必要はないというモルモンの言葉と教義上矛盾してはいない。幼児は悔改めることはできないがある年令に達すれば当然それは可能である。これに反するものは慈悲深く、賢

明な天父の計画にそぐわないのである。幼児の人格が発達して自己の行動に責任をもち、誤った行動を悔改め、すべての人々と同様に「正しいことを成就する」よう求められる時期が来る。

幼児のバプテスマを施し、自己の立場を弁護しようとする数々の教会は、聖書やその他でその儀式を立証できないのを知っている。牧師の見解はいろいろ異なっている。聖オーガスチンはバプテスマを受けない幼児は皆地獄の永遠の炎の中に入ると語りながら「私を信じて下さい。私は小さな困難には悩まされないのですが、全く何と答えてよいかわからないのです。」という言いわけを書いている。イギリスのリバプール大学でローマ・カトリックの従軍牧師ビンセント・ウィルキンズはあわれみを感じてこのように説いた。すなわち、バプテスマを受けなくとも幼児は天国に入るが、それは終りの日にキリストが世に来られてからである。その時に死だけでなく原罪も取除かれる。幼児のただ一つの罪は原罪であるので、幼児は天国に入ることができるのである。¹

現代の啓示により、このような教えは

C. N. オットセン：
ソルトレーク市、ワサッチ第二ワード部の
大祭司グループリーダー。ユタ州保険コミ
ッションナー。

是正され、明確化され、分別と責任をもてる年齢に達しない幼児は神の王国に入るのを拒まれず、バプテスマの儀式に従わなくてもよいという事実が明らかにされている。主はジョセフ・スミスを通して教会にこのように教えた。「神の前に自己の責任を知る年齢に達し、且つ悔改めを為す能わずんば、何人といえどもわがキリストの教会に受け入れらるる能わず」(教義と聖約20:71)、また特に「子供たちは八歳の時、彼らの罪の赦しを得さすバプテスマと按手とを受くべし」(教義と聖約68:27)と強調しておられる。また、罪が「両親の頭に留」らないよう(教義と聖約68:25)子供に必ず悔改めの意味を理解させ、神の御子キリストを信じる信仰を教え、その年齢でバプテスマの儀式を受けるよう備えさせることが親の責任である。

子供が自分の行動に対し分別と責任と判断力をもてる年齢、すなわち悔改めとバプテスマが彼らに必要となる年齢は8歳であると、どの程度まで一方的に決めることができるだろうか。あるいは決められないのだろうか。

経験に基く實際上、あるいは論理上のいかなる根拠があって責任を知る年齢が8歳であると決められるのか。子供たちはその年齢で善悪の区別をすることができるか。また彼らは悔改めことができバプテスマを受け聖霊を受けた後に考えられる新しい人生の機会と義務を引き受けることができるだろうか。

8歳は勉強や活動の分野で一様に、責任を知る年齢であり、分別と判断力を持ち、自己訓練し、また危険や善悪を知り成長する時期であるといわれているのは興味深いことである。児童心理学の分野の研究により、8歳の子供は悔い改めの

資質において、十分に成長していることがわかった。このことは先の質問に肯定的に答えて、以上の結論を立派に裏づけている。

8歳の児童はどのような状態にあるか。エール大学医学部児童発達臨床講義科のアーノルド・ゲセル²およびフランシス・L・イルグ両博士は、何年間も共同研究をして、子供たちの発達、成長、思考過程を分析し、次の結論に達した。

8歳の子供は大人の規準によると一人前の人格をもっている。そして一つの著しい傾向は、自分の身に起こることがらとその原因を追求する態度である。

彼は親の支配や教師からさかんに離れようとする。彼とその学友たちは彼ら自身の規律を作り、相互に批評したり、責任を割当てたりして彼ら自身の活動を取締っている。

彼らは非常にしばしば恥をかき、またうそに対してますます嫌悪感を持ち始める。彼らは自分の悪事を認め、また道徳的な標準と正直を厳密に守ろうとする。彼らは失敗を経験するようになり、また遊び友だちに命じられた禁令や制限を受け入れる。

彼らはもはや幼い子どもではない。5、6、7歳の間、彼は広い世界の限られた領域の中で少しずつ順応してきたが、8歳では判断力を示し、物事を区別し少しずつその視野を広めはじめる。そして彼の行動には支離滅裂さが少なくなり、自分自身を一人前の、また社会の一員と考える。彼らは自分の行為や他人との関係を評価するのに関心を持ち、またほかの人が彼に対して抱いている標準にかなった生活をしようと思う。

8歳の児童は自分の考えを支配し、決心し、物事を徹底的に考える能力があ

る。彼は良くなりたいと思い、また善悪相反する2つの力があるのに気付く。彼は自分の行ないにいっそう責任をもち、喜んでその結果を受け入れる。彼は今まで以上に誠実になり、宗教や聖書に心から興味をもつ。彼はさらに率先して周囲の状況に即応しようとする。³

ベンジャミン・S・ブルーム博士はその著書「人格の安定と変化」の中で、子供は4歳までに知力の半分を得、8歳までにもう40パーセント、すなわち全部で80パーセントの知力を得ると述べている。⁴

カリフォルニア州パークレイで障害者のための小学校長をしているウィリアム・ジョンズ氏は「人の一生の内で理論科学と数学を学び始めるのに最適な年齢はほぼ8歳から11歳までである」⁵と語った。

1938年、ミシガン最高裁判所にある訴訟が起こされた。その訴訟では、7歳位



の児童が自動車事故を避けるに必要な注意力や分別、判断力を持ち、また危険に対処する能力を持つか、またその年齢で責任を持てるかどうかについて論じられた。裁判官たちは、子供の世話や教育にたずさわりの心理学の分野で働く多くの科学者やその他の専門家の考えを提示した後、次のような見解を述べた。

実際の、科学的、または、研究の面のどのような根拠により「現実的に、あるいは科学や研究の面から考えて、どのような理由により7歳未満の児童をこの年齢以上の子供と違った取扱いをしているのか。

この年齢の児童の特別な立場についての考えは、数世紀前に具体化され、今日児童の世話や教育にたずさわりの心理学の専門分野で働く科学者や専門家により確証されているという事実を認めない人はいないはずである。このような研究により得られた結論のうちで目立っている

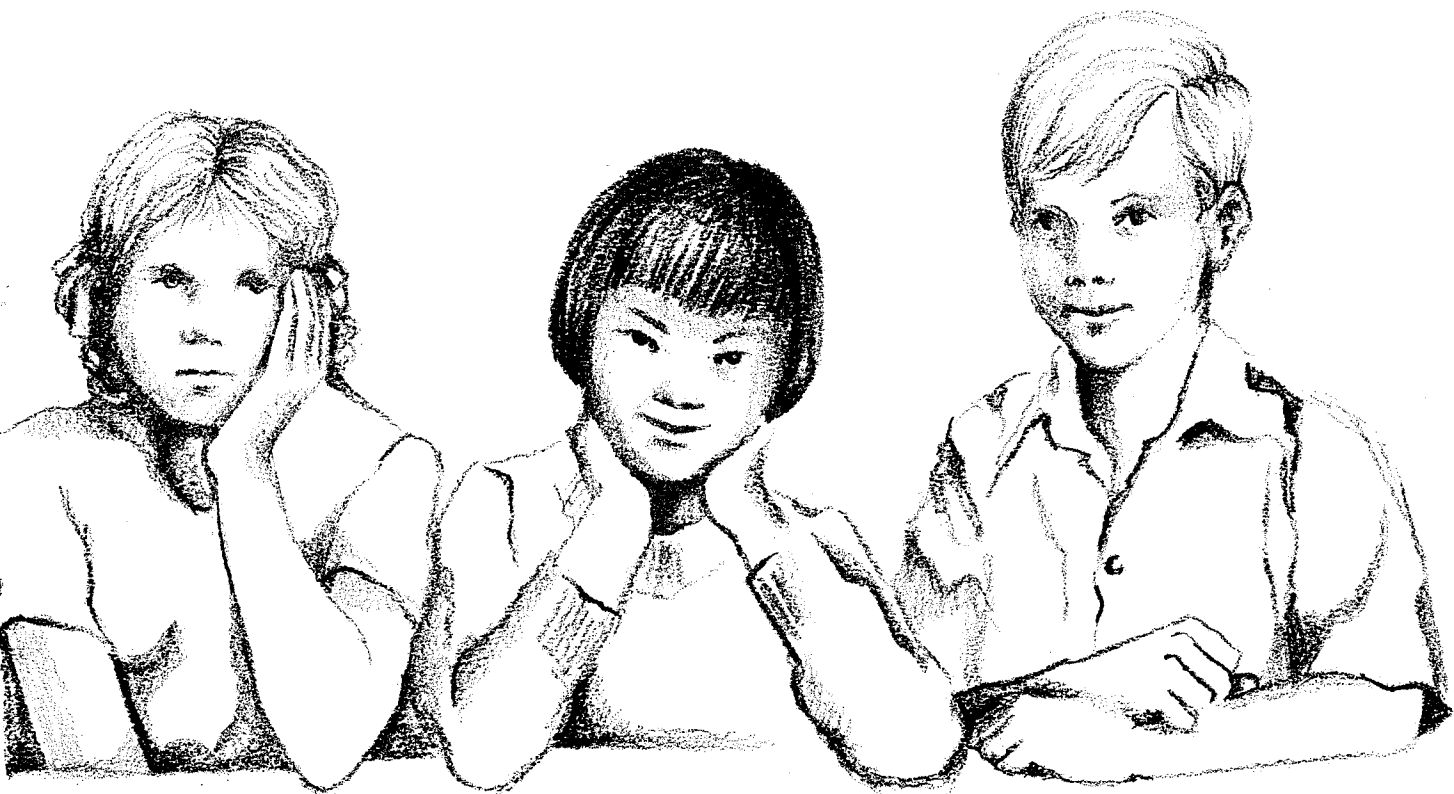
のは、7歳の年齢は児童の知能の発達の転換期であるということである。このテーマを取り上げた文献はたくさんあるがその中には、人間は7歳で思考力や判断力がつき始め、考えを変えたり、理性的な考えをもてるようになると繰り返し強調されている。この年齢で児童は自己中心の会話や考えから離れて、ほかの人の言葉を理解し、社会的な考え方を抱き、協力するようになると権威者は考えている。端的に言って、7歳の年齢は人が空想や夢の王国から現実の世界に移り始める時であると言えるであろう。

アメリカ合衆国の連邦および州裁判制度では、多くの裁判官の意見や判決は科学者や児童心理学者の考えとよく一致しており、児童は7、8歳で充分発達するという結論を出している。連邦および州裁判所は、幼児が責任をもち、また過失を犯すに充分な判断力と分別をもっているかどうかを決めるために、この問題を

取り上げて検討せざるを得なかった。

裁判所が関心を示すのは単に次の事柄のみである。幼児が自己の行動に対して充分に責任を持てるよう成長したといえるのは何歳か、あるいはどのような点においてか。幼児が善悪を識別できるに充分な判断力と経験とを得るのはいつか。どのような行ないが法律による責めを負うか、またそれは他人を傷つけるものかそれとも自身を傷つけるものか。

成人がもし法律に従わなかったり、あるいは「思慮深く分別ある人」が同じ状況下で取るような行動を取らないならば彼は過失を犯しているのである。しかし児童や幼児に対して、裁判所では標準となる一定の規則は定めていない。裁判所はまだ成長していない児童を対象とした規則を定めたがらない。判断力や経験理解力、善悪の識別力の問題は近年非常に変わってきているので、裁判所はどの年齢の「思慮深く分別ある」児童の心が



与えられた状況のもとでどのように働くかを成人の陪審員はだれしも判断できないと考えている。

その結果、価値ある2つの規則が発達した。いわゆるイリノイ規則は、7歳まではいかなる幼児も確かに能力がないと思われると独自の判断を下している。そして多くの州はこの規則に従っている。また一方、マサチューセッツ規則として知られている規則は、7歳までは無能であるという推定に反ばくできると考えている。

それら2つの規則により、裁判所は7歳以下の子供は能力がないという考えを認めると結論するのが妥当のようである。ただ一つの相違は、多くの州では幼児は確かに能力がないと考えているのに対し、2、3の州ではそうではないと考えている点である。

すべての州では、判断力や分別の能力がないと考えられる年若い人々と、判断力や分別の能力があると考えられ、自己の行動に責任をもち、かつ事実上一人前とみなされる8歳以上の人々との間の区分はほぼ7歳から8歳までと考えられていることを私たちは再び強調するのである。

過失の法を幼児にあてはめる時にイリノイとマサチューセッツ規則のどちらを守り、あるいは正当化するかは私の意図するところではない。しかし、2つの規則のどちらが取られようと、ほぼ7歳から8歳が幼児の「知能の発達の変わり目」であるという事実が強調されるのである。この「責任を知り始める年齢」は、児童心理学や刑法、慣習、教育などの分野でも同じであると考えられてきた。法廷はすべて、5、6歳以下の幼児の時代には児童は過失や助成過失の責任を負え

るほどの十分な分別は持たず、また過失を犯す能力がないと考えられると認めている。ある法廷はこのように述べた。

「私たちは、7歳以下の幼児は助成過失を犯す能力がないという、きわめて尊敬すべき著名な権威者たちの発表に従うものである」

1765—1769年頃有名な論評を書いた、昔のイギリスの法律権威者、ウィリアム・ブラックストーン卿の言葉を参照せずに法律上の話題を討議し尽すことはほとんどできない。彼はこのように語った。「実際、7歳以下の幼児は、重罪についての認識がほとんどないので、重罪を犯すことはできない。しかし8歳の子供は重罪を犯すことがありうる……」もちろんこれは刑法上の責任を述べたものであるが、これは幼児の能力と責任を知り始める年齢に関しての昔の考えをも反映したものである。

ブラックストーンは、2つの納屋を焼いて17世紀の法により罪を宣告されて縛り首になった8歳の少年の事例を取り上げている。しかしその当時の無情な法のもとにあってすら、7歳は罪のない年齢であった。

私たちは、非常に興味あることであるが、8歳以上の子供たちはほとんどの場合一致して必ず人間味が異なるということにも気づいている。

これらの違いは人の見解の相違から起こるにもかかわらず、ほとんどの法廷は幼児の行動に対する責任は次の一般的な考えをより所として検討されるべきであるという決定を下している：(a)7歳未満の児童は判断力や分別の能力がないと考えられ、過失に対して責任を負わない。(b)大多数の法廷では7歳の児童はまだ能力がなく、責任を負わないと判定

しているが、多くの法廷ではこの規則は反ばくできると考え、各児童の能力や判断力、しつけ、経歴、分別のそれぞれを充分吟味し、かつ裁判官や陪審員にその判決をゆだねている。(c)8歳になった児童は責任を知る年齢に達し、十分な判断力と能力、善悪を区別する分別をもち、一人前として受け入れ、取扱われる。

数世紀の間明らかに、学生や児童心理学者や刑事および民事裁判官はみな、普通の子供は8歳で十分に成熟し、自己の行動に責任を持てる程度にまで発達すると考えてきた。

以上は、幼児のバプテスマがいつ必要かということに関して、末日聖徒が世の中で最もよい証明と考えられていることを裏づけとして挙げたにすぎない。

神はジョセフ・スミスに幼児は8歳でバプテスマを受けるようにと個人的に命じられた。その他の証拠はすべて二次的なものである。

注

1. 「幼な児をそのままに」、タイム誌、1961年11月10日号、P52 (英文)
2. アメリカの心理学者、小児科医、1880—1961.
3. アーノルド・ゲセル、フランシス・L・イルグ共著、5歳から10歳の子供 P160—186 (英文)
4. ベンジャミン・S・ブルーム著「人格の安定と変化」P68 (英文)
5. ソルトレーク・トリビューン、1966年12月15日号、PA—17 (英文)
6. ブラックストーンの注釈、第IV巻、第23章.

よくない結婚

7つの危険信号

医学博士

リンゼイ・R・カーティス※

長年、医者としてまた監督として指導してきた経験から、高速道路の黄色い光にも似て絶えず警告の旗をひるがえしている、よくない結婚の危険信号ともいべきものがあることに気がつきました。賢明な人はこれらの危険信号に気づいて、現在進んでいる道の足をとめ、方向を変えてもっと安全な道をとります。この道は誤解や離婚という不幸から遠ざけてくれるのです。

大切なことは、これらの危険信号には一つとして消せないものはないということです。しかし注意を怠ったり、直そうという気のないままにしていると、結婚を破滅に導きかねないものとなります。これをあなたの結婚にあてはめてみて下さい。

常識的な礼儀を忘れること

前十二使徒補助であった故トーマス・E・マッケイ長老(1875—1958)は、以前私たちのスイス伝道部長でしたが、後年最愛の奥さんと共に私の事務所を訪れました。人からトーマス・E・伝道部長

と呼ばれていた彼は、当時健康を害していましたが精神だけは健康そのものでした。かなり重態のためやっと歩ける程度で、片側にステッキを持ち、もう一方をマッケイ姉妹に支えられなければならぬ状態でした。

見ていると、彼はゆっくりと病院の玄関を下りて、建物の真ん前に止めた車のところへ行きました。マッケイ姉妹の助けだけは不承不承受け入れはしたものの他の人の助けはガンとして受け付けません。

マッケイ長老はこの時病気で運転できなかったのです。私はマッケイ姉妹が彼を助手席まで連れて行くだろうと思って見守っていました。ところが、マッケイ家の女性を大切にし、礼儀を重んじる家風は病気だからといっておろそかにされなかったのです。彼のすすめで2人共運転席の方へ歩いて行きました。彼は力強く車のドアを開け、姉妹が乗り込むのを見届けるとドアを閉めました。

それからトーマ・E・マッケイ長老

は、よろけながらも力をふりしぼり、片手は車につかまりながらもう一方の手にステッキを持って、車の反対側に歩いて行きました。そしてゆっくりと姉妹の横に乗り込みました。

ちょっとしたこと。車のドアを開けたり、女性がコートを着るのを手伝ったりレディーファストを守ったり、あるいは女性に席を譲ったり、これらはみなちょっとした心づかいです。でもほんとうにそうでしょうか。私たちがあまり表わすことのない愛や思いやりのこもった言葉に比べて、これらのちょっとしたことは大いに態度に表われているのでしょうか。

ありがとう。よろしければ。失礼。ごめんなさい。大好きだよ。こういうちょっとした言葉を適切に発することがいかに大切かわかると思います。

高速道路から小さな町に通ずるきたない道路に入るとき、入口には次のような標識がついています。「これより14キロメートル、わだちに注意」賢明に自分の習慣を身につけて下さい。あなたの残りの人生はその通りになるのですから。

明らかにマッケイ家が子供たちのためにつけたわだち(そう呼ぶのであれば)は、礼儀と女性を大切にすることでしょう。そしてこのわだち(跡)は永遠に続くのです。

「私たち」ではなく「私」の立場で考えるウェインが玄関に着いたのは夕方6



時頃でした。ちょうどその時2人の息子がちょっとしたけんかをしているのが聞こえました。ジョアンは、会社でのイライラした一日を終えて帰って来るウェインに合わせて、夕食の仕度の大わらわでした。

その上、4才のブルースはテーブルクロスの上にミルクをこぼし、テリーはお皿に盛ってやったものを少しも食べようとしません。それでもようやく夕食が済みました。

ウェインの中にある「私」が、夕食後すぐにテレビでバスケット・ボールの試合中継があることを思い出しました。

ウェインの中にある「私たち」は、子供たちをお風呂に入れて寝かしつけ、自分よりもさらに大変な一日を過ごしてい



るジョアンを思いやってあげる必要のあることを主張しました。恐らく彼女は彼よりもつかれているだろうし、お皿を洗ったり、子供をお風呂に入れて寝かしつけるというちょっとしたことで、きっと彼に感謝することでしょう。彼が気分転換に今晚外出しようと言えば、ジョアンのうれしそうな顔を見ることができでしょう。

あなたの伴侶がこういうようにすることです。「いえ、結構よ。今日はいいわ。今回は、お友達といらしたら」



お互いに少しずつ譲り合う時、結婚を傷つけるものはありません。それが自発的で思いがけない場合には特に、そうです。私の両親が結婚したての頃、週10ドルの収入しかないので、什分の一の家賃、食費を払い、生まれてくる子供のため少し貯金するのに四苦八苦だったそうです。それでも2人は、お互いがいることでとても幸せだったのです。

母は何度も、父が会社から6キロの道を歩いて帰って、母のためにオレンジを買うわずかのお金を節約したことを話してくれました。父はこの犠牲にもまさって、小さな贈り物を見て喜ぶ母の顔と感謝の言葉に励まされてそうしたのです。

だまりこくこと

3児の魅力的な母である29才のジェニーは、毎晩帰宅する夫が自分に何も言ってくれないとこぼしていました。

「ところでジェニー、あなたのご主人はどんな仕事をしているのですか」

「会社に勤めていて、とても忙しいらしいですわ」

「特にどんなことをしているのですか。どんな責任を持っているのですか。仕事ではいろいろなチャンスに恵まれていて、幸せそうですか。あなたはご主人とその仕事を誇りに思っていますか」

「私、主人の仕事についてはあまりよ

く知らないんです。」

「真剣に聞いたことがありますか。仕事が多忙なふうになっているか、気づかっていたことがありますか。ご主人が仕事について話し始めた時、興味を示しましたか。それとも子供の問題や自分の関心事に熱中していましたか」

しばらく考え込んでから、ジェニーは自分の無関心が夫の無口の原因であると認めました。心の通じた話し合いを始めるには、心から関心をもつことです。人は、興味を持って聞いてくれる人がいなければ話しながらないものです。

ちょっとしたまじめな質問で会話を始めて下さい。それから意識的に相手の話を聞くように訓練しましょう。あなたが関心を持って聞くならば、ご主人（あるいは奥さん）は驚くほどあなたに話すようになるでしょう。

また妻の欲しがるものを買ってやれないとこぼすご主人は、明らかに対話を忘れているのです。話しにはお金がかかりません。しかし、無視されていると思っている妻にとってこの話しはお金で買ってもらえる以上に価値あるものです。ある場合には沈黙も金でしょうが、意志の疎通が必要な時には誤解を招きます。言葉よりも他のことが原因で失敗を招く例が多いようです。

ほめないこと

セリアは有能で、洋服の着こなしもスマートな女性でしたが、小さなことを気にするたちでした。今は遠くの大学に通っている子供たちもいて、彼女は秘書として働いています。セリアの問題とは一体何でしょうか。

「会社のある男性に心ひかれているんです」

「その人とのなれそめは何んですか」
私は尋ねました。

「彼は毎日私の机のところを歩いて行くのですが、私の仕事や髪形、洋服についていろいろと言うんです。彼に会うと自分が別人のように思えるんです。私の周囲に彼が来てから、私のイメージは100%上がったのです」



さらに質問を続けると、セリアは夫とうまくいっていることがわかりました。「私は主人を愛していますわ。でも主人は私をよくしてくれたことなんてないんです。私をよくしようなん考えていないらしく、時には私のよくない所ばかり気がつくんですよ」

「ご主人があなたのよくない点に気づかれた時、軽く受け流していますか」

「ええ、たいていはそうしますの。私がいいことをした時でも、主人は何にも言わないんです。私が髪形を変えても気がつかないし、どんな格好をしていて

も平気なんです。新しい香水を使ってもなんですよ。」

その後、私はセリアの夫と話す機会がありました。というのは、夫のジャックはセリアが会社でだれかに心ひかれているらしいと心配になったのです。

「セリアは、私が彼女のすべてに感謝していることを知っているんです。彼女の欲しがるものは買ってやっています。我が家には欠けているものはないんです。彼女は自分の車も持っています。女性はこの他に何が欲しいんでしょうか」
夫のジャックはこう言いました。

「セリアは、自分が思いを寄せている人から与えられているもの、そしてまさにあなたが見落しているものが欲しいんですよ。恐らくあなたは彼女に気がつかっているのですが、彼女の方ではあなたが自分の存在すら認めてくれないと思っていますよ。なぜだと思いませんか。あなたが話しかけないからです。女性というものは、結婚前に相手から言われたほめ言葉が、結婚後もずっと繰り返し口に出されないと心配なんですね」

現在ジャックは彼女のよい点を言うようになりました。彼の言葉はただのお世辞ではなくすべて本当のことです。しかし、以前には口には出さなくとも当然わかっていてと思っていたのです。

セリアの心はだんだん元気になり、夫も彼女を見直しました。今このカップルには再び希望が出てきました。

あまりにも多くの結婚が怠慢によって破たんを招いています。結婚は単なる一人芝居ではないのです。夫も妻も、互いにより点をほめ合う必要があります。毎月、7回ずつではなく7の70倍もです。

共に祈らないこと

もしネリーとルーに剣を持たせていたら、血の海と化していたことでしょう。ネリーはこう言いました。「もうおしま

いですわ。でもルーは、とにかくあなたの所へ行こうと言い張るんです。切れたものを元通りにしようと思っててもあまり効果はないと思いますよ」



そこで私は言いました。「あなたたちの別れ話には全然関係ないんですが、今私は心の中に一枚の写真を思い浮かべているんですよ。とても幸福そうな花嫁であまりにも清らかな恋のために彼以外の人は考えられなかったのです。またその若者は「はい」という誓いの言葉の時に美しい花嫁から片時も目を離さなかったのをおぼえています。あなたたちもこんなふうに幸せな時があったことを思い出して下さい」

「ええ、でも今ではすべてがおしまいなんです。お互いにいい言葉使いさえできなくなっていますの」ネリーが言いました。

「そうですか。当時はあなた方も幸せでしたね。そして神殿の儀式を終えられた時、2人共将来のことについて非常に靈感を受けたと思います。受けた忠告を心に留めて、一緒に祈られましたか」私は尋ねました。

「ええしました。でも長くは続きませんでした」

「互いに手を取り合って祈りましたか。そして問題のある時には、主の助けをお願いしましたか」

次にルーと話しました。「はい先生、私たちはよくやりましたよ。先生が何を言わんとしているかもわかるつもりです。次にあなたが聞かれることは、現在のような結末に到らないよう、なぜ主に助けを求めてお互いのみぞをなくすようにしなかったのかというのでしょうか。どうですか？」

「ある意味でね。私がお聞きしたいのは、いつ頃どのように一緒に祈ることをやめてしまわれたかということです」

「話せば長いことですが、一緒に祈らなくなってから確かに私たちには深刻な問題が起きていますね。家庭における神権者として、私はあまりにも多くのことに無頓着で、うかつだったことを認めざるを得ないんです」

「御二人に正直に答えてもらいたいのですが、もし結婚当初のような幸福、愛、信頼、親しさが持てるとしたら、欲しいですか」

「先生、それはつらい質問ですわ。もしという条件がつきますけれど、答えはもちろん『はい』ですね。でもおそすぎると思いますわ。特にすべてを話した後ではね」ネリーはおどけたように言いました。

「ネリーにルー、あなたたちはしたくないと思っていたことをしたことがありますか。答えるまでもなく、私たちはすべてそれをしているのです。主がこれらのことをきれいにぬぐいさりもはや忘れて去って下さったかと思いませんか」

「先生、私たちがそうしたいのはおわかりでしょう？」ルーが言いました。

「それでは、あなたたちにその気があり、主が二人のなしたことに寛大なみ心を示して下さると期待しているのなら、お互いがなしてきたことを許し合い忘れるというのは無理な要求でしょうか。私と一緒にひざまづいて祈り、主に私たち



の罪を許して下さいよう、また私たちがお互いを許し合う力を与えたまうようにお祈りしてみませんか。

同時に、あなた方が神との誓約と結婚の誓約を尊ぶよう、今一度その機会を与えて下さることをお願いし、もしみ心であれば、常に祈りの中に2人で主を求めることを約束しようではありませんか。

最後に一言。あなた方の結婚において主は常にすばらしいパートナーだということを忘れないで下さい。主は求められるまで黙っておられます。しかし、いつまでも喜んで助けようとされているのです。あなたたちの結婚生活でいつも主をパートナーにして下さい」

相手の要求を感じとったり、満たさないこと

大つぶの涙がきれいな彼女の頬を伝っていきました。「もっと良い家や、他の人が持っているものを買う余裕がないことなんて平気なんです。文句を言ったことありません。それどころか、私は主人を喜ばせようと、朝は暗いうちから夜は暗くなるまで働くつもりでした。でもたった一つ、私には必要なものがあります。それは自尊心です。自信と呼んだ方が良いのかもしれませんが、少なくとも私はそれを失ってしまったのです」

結婚後わずか3年しかたっていない24才のルスは離婚しようとしていました。「私は、自分が良い妻、またすばらしい

母親であり、人生において少しは成功したという確信が欲しいのです。少しでもいいから、ドンにそう言って欲しいのです」

また、ジェラルドが私の事務所を尋ねて来て、妻のビッキーについて次のように言いました。「先生、私は人食い人種ではありませんよ。妻に私のことだけを考えろと言っているのではないんです。私は家族を愛しています。これこそ男と女を結びつけるきずなだと思いうんですよ。それなのに、ビッキーはただ私を払いのけるだけなんです。私はビッキーがいとおしくて仕方がないのに、どうしたら良いのでしょうか」

32才のバーナドはこう言っています。「私はいつも父と弟たちと共に狩りに行くんですよ。たいてい2〜3日のことですけれど、これは家族のきずなを強めるものですね。狩りをしない時は妻と子供と過ごしたいと思って計画したのですけれど、彼女はがん固で私のことなんて少しも考えないんですよ」

テレサは魅力的な金髪をした27才の女性です。「先生、女性が週に1度美容院に行くと髪をセットするのはいけないことでしょうか。家以外には借金がある訳ではないし、いつもお金を貯めて行んです。ダグはボートや鉄砲、釣り道具まで持っているんですよ。私は週に1度髪をセットするのが楽しみなんです。私はわ

がままでしょうか。彼は私がムダ使いをしているというんです。この問題は私たちの結婚をおびやかしているんです。」

「ばかなと思いますか。しかし、船底につく甲殻類のように、ささいなものでも積み積みすると害になるのです。」

アルバート・アインシュタインの妻はアインシュタインの相対性原理がわかりますかと尋ねられてこう答えました。

「いいえわかりません。でもアルバート・アインシュタインのことはわかります。」

相手の要求が愛情であれ、感謝、自信、心づかい、あるいは夕食に特別なお皿を使うことであれ、よい伴侶であれば相手が特に望んでいることを察して、満たそうとするものです。真実、人はパンのみで生きる者でなく、自分のことを思ってくれる伴侶から心を満たされて生きていることが多々あります。

愛を示さないこと

妻から離婚を求められていた男が、裁判官になぜ妻を愛していると言わなかったのかと尋ねられました。彼は愛していると言ったと答えました。

「いつですか。」裁判官が聞きました。

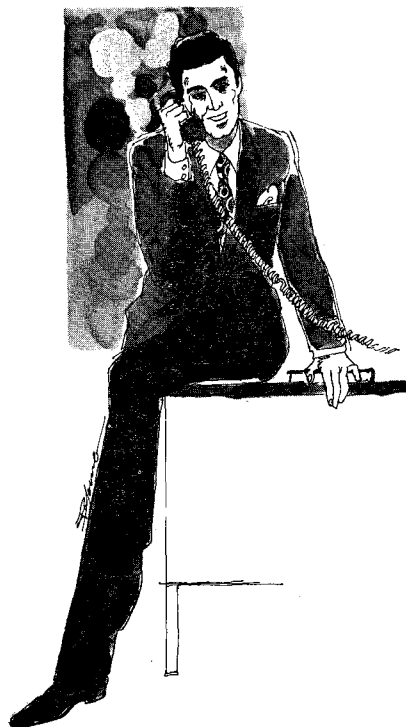
「結婚した時です。」恐らく、それ以来彼は一度も言ったことがないのだと思います。すべてのものは平凡で古めかしくなるものですが「愛しているよ。」という言葉だけは例外です。女性は（そして男性も）、この言葉を何度も繰り返して聞きたいと思っています。いつも確かめたいと思っています。

この場合のように、夫がいつも愛の言葉を繰り返していなければ、沈黙の愛は失われてしまいます。

「彼が私を愛してくれているのはわかりますけれど、どうして言ってくれないのでしょうか。」そうです。私たちは常に愛の言葉を繰り返すのです。

男性にとってよい方法は、昼間、家に

いる妻に電話をかけて、愛しているという簡単な言葉をかけることです。ちょっと試してごらん下さい。いつもあなたが妻のことを考えていて、他のだれよりも妻と一緒にいたいと思っていることを彼女に示したら、どんな反応を示すと思いますか。



男性はみな妻に対する「女王賞」に参加しなければなりません。次のようなことがらがあなたの妻に合うかどうか検討してみてください。

よいふるまいの女王：失意の時にも楽しくふるまうことに対して。私はバレンタイン・デーによくプレゼントを忘れるため、妻はそのかわりに接吻を受けます。

手紙書きの女王：学校や伝道、軍隊で家を離れている子供に対して。

指揮の女王：最も交通量のはげしい我が家を上手に指揮していることに対して。

製作の女王：忙しい父親の助けを当てにせず、しかも文句も言わずに子供たちにより結果をもたらしていることに対し

て。

服飾の女王：卒業式、ダンスなどいろいろな服をデザインし製作することに対して。

わき役の女王：教会でもまた社会でも、私の責任を心から不平も言わずに助けてくれることに対して。

現代における最大の誤まりは、男性も女性も結婚したらそれ以後幸福に生涯を送るという考え方です。事実、最初はお互いにいわゆる愛で心ひかれます。それから二人は結婚して、愛の生活を築いて行こうとします。しかし真実で、絶えることのない意義ある愛は、突然生まれるものではありません。

愛は、結婚式で交わす誓約と約束というしっかりした土台の上に築かれなければなりません。そしてその後は、着実に一歩ずつ、愛の行為とやさしみ、人を思いやる心、自己を忘れた心を積み重ねながら、生涯を共にすることなのです。よくない結婚の危険信号を知り、その兆候が表われた時には治療し、もとの健康な状態に戻す備えをしましょう。

最後に、男性は（同じことが女性にも言えますが）妻から王様のように扱われたいと望むなら、妻を女王のように扱うことです。

※

ユタ州オグデンのウェバー・ステート大学第2ワード部監督をしているリンゼイ・R・カーティス博士は、婦人科医であり、新聞にも医学問題を執筆している。

神会の真の知識

リチャード・O・コワン

神

の属性と性格を正しく理解することは真の宗教の根本である。主は古代のイスラエル人に「あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない」と命じられた。(出エジプト20:3) またキリストは神を知ることと永遠の生命の偉大な賜との関連を述べられた。「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわされたイエス・キリストを知ることです。」(ヨハネ17:3) ジョセフ・スミスはこの末日に、私たちの信仰箇条の第1条が神会を信じる信仰であり、福音の第一原則が「主イエス・キリストを信じる信仰」であると教えた。

末日聖徒イエス・キリスト教会は新約の時代に神についての真理が平易に、美しく、また力強く教えられたと確信している。聖なる権能と啓示が教会に与えられなくなり、背教の暗黒が地上をおおった時、この真理は失われた。御父と御子が1820年にジョセフ・スミスに現われたまい、時満ちたる神権時代が始まって初めてこの知識が再び人々に知らされたのである。

神会の三方は別々の御方であると新約聖書に明らかに教えられている。たとえば、イエスがバプテスマを受けられた時「……天が開けて、聖霊が……姿をとって……下り、そして天から声がした『あなたはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である』」(ルカ3:21-22, マタイ3:13-17およびマルコ1:10-11参照)

ジョセフ・スミスはこのように語った。

「はとのしるしは世界の創造以前に聖霊の象徴として定められた。悪魔ははとのしるしをとって現われることはできない。聖霊は一人の御方であり、人の形をしておられる。……聖霊ははとになることはできないが、その行為の真实性を知らせるために、はとのしるしがヨハネに与えられた……」¹

バプテスマは現在、御父と御子と聖霊との御名により行な

われている。1843年主はジョセフ・スミスに神会について次のように教えられた：

「御父は、人間の有する肉体と同じく触知し得る骨肉の体を有したもう。御子もまた然り。されど、聖霊は骨肉の体を有したまわずして霊の御方なり。もし然らずとせば、聖霊われらの中に住みたもうこと能わじ。」(教義と聖約130:22)

「神は自分のかたちに人を創造された。すなわち、神のかたちに創造し、男と女とに創造された。」(創世1:27, ヘブル1:1-3 参照) キリストとすべての人は神のかたちに創造されている。キリストは復活後、使徒たちに骨肉を有する御自分の体をさわらせたまい、御自分が霊だけではないということに彼らに悟らせたもうた。

「……イエスが彼らの中にお立ちになった。そして『やすかれ』と言われた。彼らは恐れ……霊を見ているのだと思った。そこでイエスが言われた『なぜおじ惑っているのか。……わたしの手や足を見なさい。まさしくわたしなのだ。さわってみなさい。霊には肉や骨はないが、あなたがたが見るとおり、わたしにはあるのだ』」(ルカ24:36-39)

新約聖書にはキリストの栄光について数々の証拠がある。ペテロ、ヤコブ、ヨハネがキリストの変貌を見た時、パウロがダマスコへの道中に改宗した時、またヨハネが黙示を受け始めた時、皆キリストの栄光を偉大な光と輝きという言葉をもって語っている。

御父の指示のもとに働かれる私たちの救い主は、神と人との間のただ一人の仲保者であられる。パウロはテモテへの手紙でこのように言っている。「神は唯一であり、神と人との間の仲保者もただひとりであって、それは人なるキリスト・イエスである」(Iテモテ2:5) それゆえ、主は弟子たちにイエス・キリストの御名により直接御父に祈るよう特別に教えられた。

初期の教会が啓示による導きを得られなくなった時、これらの根本の真理は失われた。異教徒の哲学の影響を受けて、キリスト教徒の思索家たちは、どのように考えればキリスト教徒が神会の三方を認めながら同時に唯一の神を拝する一神教信奉者になれるか説明しようとした。そこで数々の解釈が下された：

養子縁組説をとえる者は、キリストは神の御子に養子縁組され、神にまで高められたほど完全な神性をもっておられたが単なる死すべき人にすぎないと考えた。

三位様式説者は、神はただ一人の御方であるが、役者のように相次いで御父と御子と聖霊の役割を演じたもう一人と考えた。

紀元 325 年、コンスタンチン大帝によって召集されたニースの会議で、神についての伝統的なキリスト教の教義の基礎が置かれた。ニースの信経の一節は次のとおりである：

「われらは、……父なる唯一の神と、……父の本体を有し、……父の生みたまいし神の子イエス・キリストなる唯一の主……を信ず」¹

後にアタナシウスの信経は同じような教義を明らかにした：

「カトリックの信仰は、そのペルソナを混同することなくまたその本体を分つことなく、唯一の神を三位において、また三位を一体において礼拝することこれなり。何となれば父と子と聖霊との神性は一にして……」²

キリストの人間性と神性についてある混乱を生じ、紀元 451 年、カルケドンの会議で、キリストは生誕以前には二性、生誕後には一人格を持ちたもうと決められた。個性を持っておられる神という考えがしだいに失われていった。むしろ神は全宇宙に満ちる「原動力」あるいは力になった。英国教会の信条はこのような考え方を次のように述べている。「永遠にして、体なく、手足なく、感情なく、……生ける真の神ただひとりあり。」³

人々が神の公平さを力説し始め、また神を審判者として恐れ始めた時にもう一度教義は変えられた。神の個性に関してははっきりとはわからなくなり、このことによって人々は愛情深い御父としての神を忘れるようになった。そして人々は神と人との間のへだたりを埋めるべく、仲介者として働く「聖人たち」へ心を向け始めた。

ある宗教改革者たちは神の愛に再び関心を向けたけれども、神の個性に関して正しく完全な理解を回復することはできなかった。

これが宗教上の混乱の背景であり、これによってジョセフ・スミスはまず聖書に心に向け、次いで「いずれの教会が本当のものか。いずれの教会に加入すべきか」との疑問に答えたいだくために祈ったのであった。彼は「神に願う」ために森に入った時、彼の信仰による単純な祈りが福音の新しい神権時代の始めとなり、また神会の真の知識が回復されるものになるうとはまったく考えなかった。彼の最初の示現は歴史的な事柄であり、彼はこのように記している：

「……私は自分の真上に太陽にも増して輝やく一つの光の柱を見た。そしてその光の柱は次第に下りてきて、光はついに私の上にふり注いだ。……その光が私の上に留った時、私は筆紙に尽し難い輝きと栄光とを有したもう二人の御方が私の真上の空中に立ちたもうのを見た。そしてその中のお一人が私に言葉をかけて私の名を呼びたまい、他のお一人を指して「こはわが愛子なり、彼に聞け」と仰せられた。」（ジョセフ・スミス 2：16, 17）

この一度の経験で、いくつかの真理がジョセフ・スミスに明らかにされた。

1. 神会を成す方々は三人の別々な御方である。
2. 御父と御子は実際の体を持たれ、人はそのかたちに創造されたのである。
3. 御二方の栄光と輝きは筆紙に尽し難いが、ジョセフは神会の三番目の御方である聖霊により御二方を見ることができ、また彼が見たことの真理を記録することができた。

「御父と御子は互によく似た栄光ある二人の御方であったということを……聖霊が（あの神聖な出来事の時にも力を感じさせた）彼の心に記憶させたもうた。」⁴

「神はその聖き『みたま』により、すなわち聖霊の言い尽し難き賜によりて、世の始めより今日に至るまで嘗て表したまいしことなき知識を汝らに与えたまわん」（教義と聖約 121：26）

4. 御子は御父の指示のもとに働かれる。
5. 人々はいかなる仲介者もなしに直接神に祈り、答えを受けることができる。

注 1. 「予言者ジョセフ・スミスの教え」、ジョセフ・フィールディング・スミス編、P276（英文）
2. B・H・ロバーツ、「宗教歴史梗概」第4版、末日聖徒イエス・キリスト教会、1924年、P189（英文）
3. B・H・ロバーツ、「宗教歴史梗概」P180（英文）
4. B・H・ロバーツ、「宗教歴史梗概」P191（英文）
5. ブルース・R・マッコンキー、「モルモン教義」P285—287（英文）、（モーセ1：14, 15参照）

約束を守る



日曜学校中央管理会長

デビッド・ローレンス・マッケイ

夏

の暑いある日のこと、デビッド・O・マッケイは畑で干草を運んでいる父のデビッド・マッケイを手伝っていた。彼が厩いをとりつけた荷馬車を干草の山の間に乗り入れ、彼の父が馬車に干草を積み上げた。二人は手順よく働いてもうほとんど積み上げてしまい畑の土の上の干草はきれいになくなっていった。その頃は什分の一が金銭ではなく農産物で納められていた。九番目の干草の山を積み終ろうとする時デビッド・O・マッケイは次のものは什分の一のための干草であることを知っていた。二人が働いているその畑は低地で少し湿っぽいので牧草があまりよくなかった。しかし畑の高い部分では上等な干草がとれるのだった。

「什分の一のために高い方の畑へ馬車を運びなさい」とデビッドに父が言った。「あそこの干草は上等すぎますよ」と低地の畑で働いていたデビッドは什分の一の分も他の干草と同じものでかまわないと言った。「いや、主に納めるのだから最も良いものをとりなさい」と彼の父が言った。

それで畑の最も良い十番目の干し草の山を什分の一とした。これは今まで聞いたどんな什分の一の説教にもまさった教えだった。このことはかれの父親が年若いデビッド・O・マッケイに、義務を果たすためには数マイル余計に行くことも大切なことを教えこんだことを物語っている。父も息子も什分の一はおくりものではなく、私たちが主に対してすでに約束した事柄に対して当然支払うべきものであることを理解していた。デビッドはその日、約束は十分にしかも喜んで果たされるものであることを学んだのであった。それは文字どおり約束が成就すること以上のものだった。自分の義務を完全に果たし、約束を必ず守ることはデビッド・O・マッケイの生涯をとおしての主義の一つとなった。「慎んで義務を果たす

こと」について彼はよく説教をした。義務は彼にとって、天父と自分自身に対しての約束と同様に守られるべきものだった。もし彼がなすべきであると感じたら、いかなる楽しみもかえりみず、彼がなそうと思った義務をわき目もふらずになし遂げるのだった。彼は、口約束だからといって契約を破り、不完全な文書を約束の唯一のたよりとするような人々にはがまんがでなかった。

彼と会う時間を約束すると、彼は必ずそれを守り他の人もそうすることを期待した。彼がヨーロッパの伝道部を旅行したとき、私は6週間彼といつも行動を共にした。私は彼が8時30分に約束したらそれは8時31分を意味するのではないということがすぐにわかった。

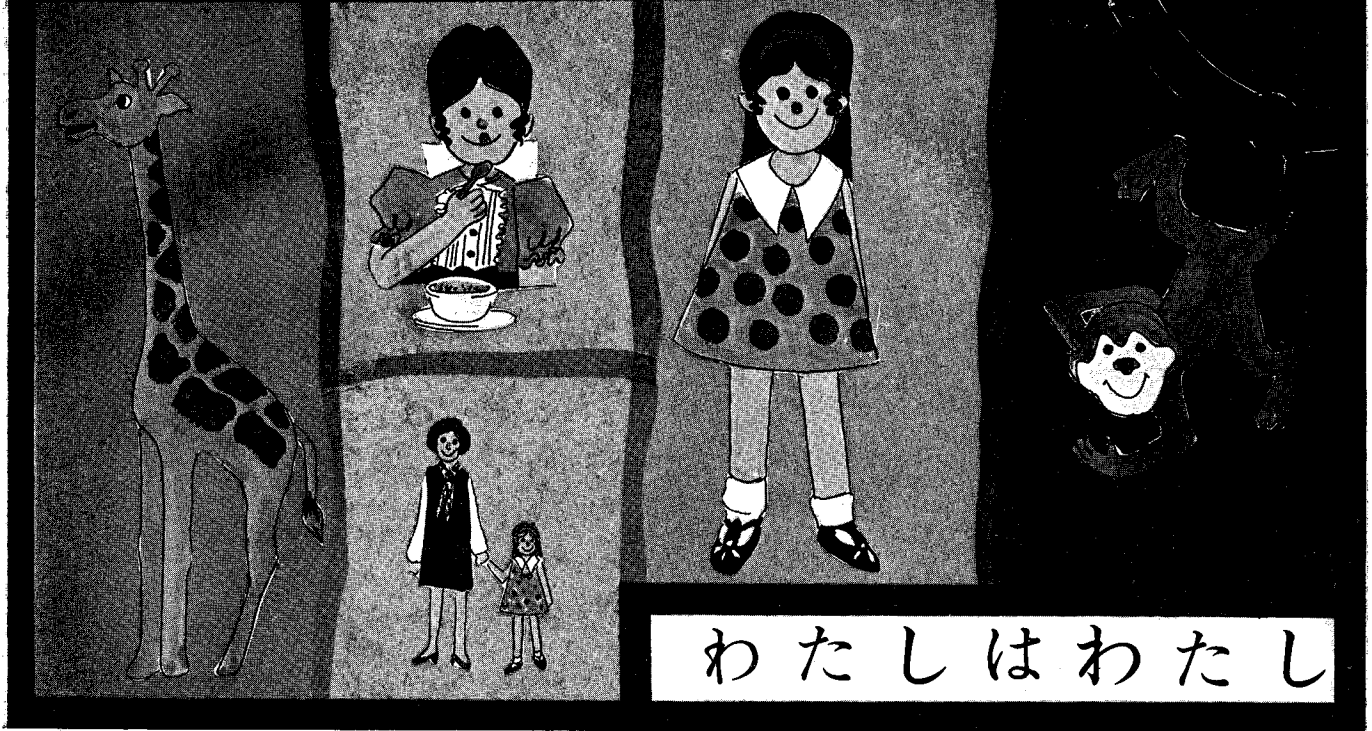
マッケイ大管長は、子供が大人の模範を見てそのとおりにまねするので、子供との約束が守られることの大切さを特に心にかけていた。

ある日デビッド・O・マッケイは日曜学校のクラス教師と予定の時刻に彼の事務所でそのクラスの生徒たちと握手をすることを約束した。しかし、約束をしていた日に急病で病院に行くことになったのでクラスの生徒たちはがっかりした。彼は約束を守るために退院して、最初の日曜日にその日曜学校に行ったので日曜学校管理会長はあ然としたのであった。

ロンドンで一人の少女が人込みをかきわけてやってきて、彼にサインしてもらえるかどうかたずねた。彼は承知したがその少女は、彼と握手をしようとしてきた大人の人々にわきにおしやられてしまった。マッケイ大管長はその少女を見つけ出したいと思ひ数時間かかってとうとう彼はその少女をさがしあてた。こうしてマッケイ大管長はその約束を果たしたのであった。

私たちはある日、マッケイ大管長を食事会に招待した。私の兄弟の一人、レウリンもお客として招かれた。彼は移民してきた姉妹と約束していた時間に遅れていることに気がついたが、その姉妹は待っていてくれることを彼は知っていた。彼は、父親との食事会の方が大切だと考えたのだった。マッケイ大管長がこれを聞いた時、レウリンは食事をすぐやめさせられた。「あなたは彼女との約束を守るべきです。ここで何をしていますのですか。早くしなさい。」レウリンは、彼女は自分が遅れていくことを理解してくれるだろうし、家にいるのだから迷惑ではないと説明した。

「それは言いわけになりません。約束は守らなくてはいけない。自分の言葉に責任を持つのです。」レウリンはその日おいしいデザートを食べそこねたのである。



わたしはわたし

ロザリンド・R・ドラパー作

む かしあるところに、ほんとうにかわいらしい、ちいさなおんなのこがいました。

ある日、おかあさんが、そのこにいました。「アッコちゃん、あさごはんをたべて、あなたのだいすきな、おようふくをきなさい。きょうは、どうぶつえんにいくのよ。」

アッコちゃんは大きなオレンジいろのみずたまもようの、きいろくてかわいいようふくをきました。それから、アッコちゃんとおかあさんは、ちいさなてとおおきなてをつないで、バスのていりゅうじょのほうへ、あるいていきました。ふたりはおおきなきいろのバスがくるまで、ちいさなきいろのベンチに、すわってまちました。

どうぶつえんで、アッコちゃんは、わらっていいました。「ママ、みて。キリンよ、くびがながくてほそいわ。」

「キリンは、きのはをたべられるように、ほそいくびをしているのよ。」とおかあさんがこたえました。

アッコちゃんは、みずのなかにたっているカバをみて、くすくすわらいました。「みて、カバのくびはながくないし、ほそくないわ、みじかくてふとってる。それにあんなにみじかいしっぽ。」

「そうよ、カバはみじかくてふとったくびで、あのおおきなあたまを、ささえているのよ。」

さるのおりのところにきたとき、アッコちゃんはてをたたいて、さるをゆびさしました。

「ママ、みておもしろいおさるさん。しっぽはみじ

かくないわ。とてもながいしっぽよおさるさんはながいしっぽで、ブランコするのね。」

アッコちゃんは、へびをみて、こえをはりあげました。「へびのしっぽは、ながくもないし、みじかくもないわ。からだぜんぶが、しっぽみたいね」

おかあさんが、わらっていいました。「へびはしっぽがないのよ、アッコちゃん。でもあなたのいったとおり、しっぽみたいね。へびにはあしがないので、つちのうえを、はってあるかなくてもならないのよ。」

そのひのよる、アッコちゃんは、グリーンの大きなかめのもようのついた、小さなピンクのバジャマをきたとき、かがみをみていいました。

「わたしのくびは、ながくてほそくないわ。わたしはきからはをとって、たべなくてもいいの。」

わたしのくびは、みじかくてふとくないし、おおきなあたまを、ささえていないわ。

ブランコするのに、ながいしっぽはいらない。わたしはあしでブランコを、そらたかくこげるわ。

わたしは、からだぜんぶがしっぽのようではないわ。あしやうであるもの。わたしには、ふたつのあしがあるから、つちのうえを、はってあるかなくてもいいわ。

わたしは、おおきなおんなのこではないけれど、あかちゃんでもない。わたしはちいさなアッコよ。わたしはほんとうに、わたしでよかった。」

ひい おじいさん マクドガルの バックパイプ

ロザリー・W・ドス

アングス・マクグレゴーはすばらしいできばえで自分の演奏をおわりました。

バックパイプ（風笛）のコンテストはおわったのです。

ジェミー・マクドガルにとってもコンテストはおわりました。ジェミーはコンテストで最善をつくして吹奏したのです。でもジェミーはアングスのようにじょうずに吹けませんでした。

アングスはスコットランド高原地方で一番上手にバックパイプを吹奏しました。たった数分で、ジェミーが思ったとうりアングスが勝抜き者であるとの審査がなされました。今、アングスはグラスゴーの決勝戦に出場できる名誉を得たのです。アングスがグラスゴーで勝ち抜いた時には、それは公式のものとなるのです。アングスはこの高原地方で最もじょうずな子供のバックパイプ奏者となるのです。

みんながアングスのまわりに集ってきておめでとうと言いました。かれとアングスとは仲良しであり近所どうしでした。

ジェミーはアングスのところに話しに行くまえに、のどにひっかかっているわだかまりをぐっとのみこまねばなりません。ジェミーは言いました。「アングス、君がグラスゴーで優勝できるよう祈ってるよ。君ならやれるさ。」

「ありがとう、ジェミー、でもぼくはやれるかどうかわからない。」とアングスが答えました。

「えっどうして」とジェミーはおどろいてたずねました。

「このバックパイプはもう古くてもたないかも知れないんだ。」そう言ったアングスはジェミーにそのバックパイプをさし出して見せました。



「かわが古びて弱ってるからもうやぶれてしまいそうだよ。」
「なぜそれがだめになるまえに新しいバッグ・パイプを買わないの。」とジェミーがたずねました。アンガスは悲しそうに頭をふりました。「良いバッグ・パイプは値段が高いよ。」そういつてからアンガスは顔をあげて「でも優勝のリボンとっしょに賞金がもらえる。ぼくがもしグラスゴーの大きなコンテストで勝てば新しいバッグ・パイプをたぶん買えるよ」と明るくいいました。

ジェミーは自分のバッグ・パイプを見ました。それはひいおじいさんマクドガルのバッグ・パイプでした。それは銀色の金具がついてマクドガル家をあらわす色で袋のところが飾りつけてある美しい楽器でした。マクドガル家からはいつもこの高原地方の最も優秀なバッグ・パイプ奏者が出ていました。この古くて立派なバッグ・パイプはグラスゴーのパレードでなんども吹奏されたのです。でもきょう、ジェミーはこの伝統あるマクドガル家の名誉を保つことができなかったのです。ジェミーはマクグレゴリーにまけました。もしマクグレゴリーが友だちではなかったなら何も問題はなかったのです。ジェミーは不愉快でした。

アンガスの母親、マクグレイ夫人が「ジェミー、ホットケーキとビスケットがあるの、どうぞ家にいらっしゃいな。」と言ったのでそれまでジェミーの思っていたことは中断されました。

すばやくジェミーは顔をそむけました。ジェミーはそのお祝いの会に出たくありませんでした。ジェミーが家に走って帰る途中、足になにかやわらかいものがさわりました。それはアンガスのコリー犬で、大きくてきれいなうす茶色と白のぶちのラディでした。ジェミーはアンガスがあまりにも幸運すぎると思いました。アンガスはきょうバック・パイプコンテストに優勝し、その上この地方で一番りっぱなコリー犬も持っているのです。ラディは優れた牧羊犬として何度も賞を獲得していました。

「ラディ、おまえは良い犬だよ。」とジェミーは立ち止まり、犬の頭をなでながら言いました。ジェミーとラディは昔から

の仲良しでした。ジェミーとアンガスとラディはいっしょによく羊の群を丘につれていって番をしたものでした。

ジェミーはラディを最後にボンとたたき走って家に帰りました。家に着いて入口のドアがジェミーの後でバタンと閉じた。とたん大粒の涙がほほをつたって流れ落ちました。ジェミーは居間のテーブルの後の、いつもそのバッグ・パイプを讀えて飾っておく特別な場所にひいおじいさんのマクドガルのバッグ・パイプを静かに置きました。そしてジェミーは泣くまいとしてにぎりこぶしで目をおさえました。マクドガルのバッグ・パイプは今年、グラスゴーでは吹かれないのです。それはジェミーが努力しなかったからではありませんでした。ただ、アンガスの方がジェミーよりずっとじょうずだったからでした。

コンテストの前に、お父さんとお母さんがジェミーに言いました。「ジェミー、一番大切なことは最善をつくすことでそれにまさるものは何もないのだよ。」

ジェミーは最善をつくしたのです。でも最善をつくしたのだから、敗けてもよいのだという気持にはなれませんでした。最善をつくしたことは今のジェミーのみじめな気持ちをなぐさめてはくれませんでした。

ドアのところでひっかくような音がしました。ラディです。アンガスはよくジェミーを呼ぶためにラディをよこすのです。でもきょうジェミーは行きたくありませんでした。

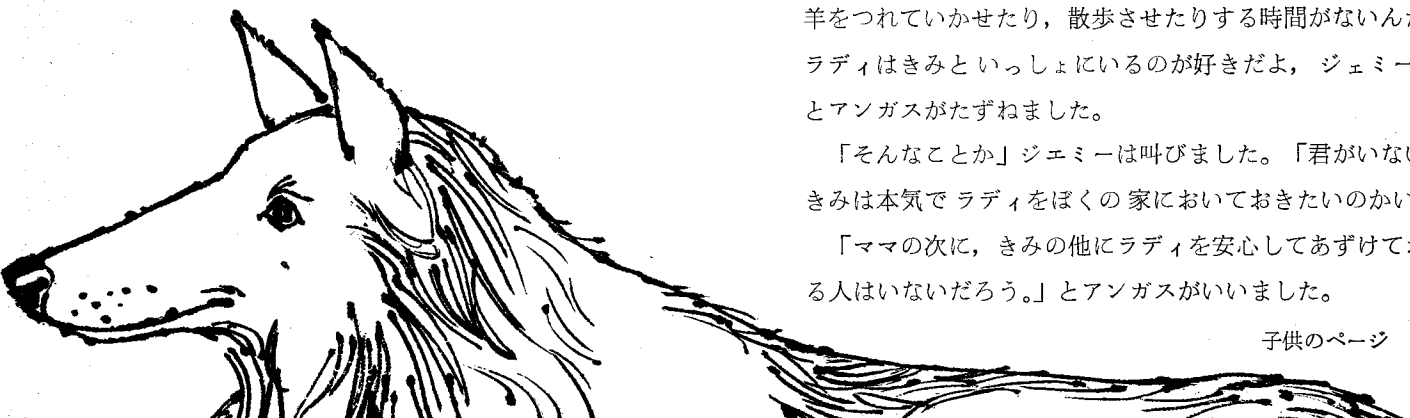
ジェミーはドアをあけて言いました。「よし、わかったよラディ、ぼく、行くよ。マクドガルは悲しい敗北者だなんて言わせないでくれ。」マクグレゴリー家へいく道の途中でジェミーは迎えに出ていたアンガスにであいました。「ぼくがラディをおくったんだ。君にたのみたいことがあってね」とアンガスがいました。

「何だいそれは。アンガス」ジェミーはたずねました。アンガスはこの上なにがほしいというのだろう。きょうはすべてをもらったというのに。

「ぼくがグラスゴーにいる間、君の家にラディをおいてくれないかい。ママはラディの世話はよくできるけれど、丘に羊をつれていかせたり、散歩させたりする時間がないんだ。ラディはきみとっしょにいるのが好きだよ、ジェミー。」とアンガスがたずねました。

「そんなことか」ジェミーは叫びました。「君がいない間きみは本気でラディをぼくの家においておきたいのかい。」

「ママの次に、きみの他にラディを安心してあずけておける人はいないだろう。」とアンガスがいました。



「ぼく、ラディの世話をよくするよ。ぼくはラディが自分の犬みたいにかわいいんだもの。」とジェミーがいました。

「知っているよ。だから、ぼくがグラスゴーから帰ってきたら、きみといっしょにマクファーソン家にいってボニーの小犬たちの中から一番気に入ったのをきみにもらってほしいんだよ。」

「小犬たちの中で一番気に入ったものだって、何のことだい、アンガス」とジェミーがアンガスにたずねるとかれは説明しました。「ラディは今度生れるボニーの小犬たちの父親なんだ。ぼくはボニーの小犬の中から気に入ったのをもらえることになっているだ。でもジェミー、ぼくはこの特権をきみにあげるよ。きみは好きな小犬をえらんでいいんだよ。」

「ありがとう。アンガス」ジェミーはあまりしあわせでなんといっているのかわからずまるではじめて会ったかのように友だちを見つめました。

アンガスは、ジェミーが、バッグ・パイプコンテストに勝てなくてどんなにがっかりしているかを知っていました。それを口に出してジェミーをこまらせることはスコットランドの家の誇りがゆるさずアンガスにはできないことでした。しかし、アンガスは深い思いやりと理解をもって、小犬の一匹をジェミーにおくることによりジェミーの心をなぐさめよう

としたのでした。子犬をおくことはたいへんなことでした。その小犬たちは買えばそうとうな値段につくものです。しかしアンガスはジェミーに小犬のおくりものをしました。

アンガスはなんとすばらしい勝抜者なのでしょう。大きなコンテストに優勝したというのにその勝利を誇らず、友だちの気持ちを思いやるほどのゆとりがあるとは。アンガスは敗けたジェミーよりはるかに立派な勝抜者でした。

「アンガス、ぼくもきみに大きな頼みがあるんだ」とジェミーはいました。

「なんだいそれは。」アンガスはたずねました。

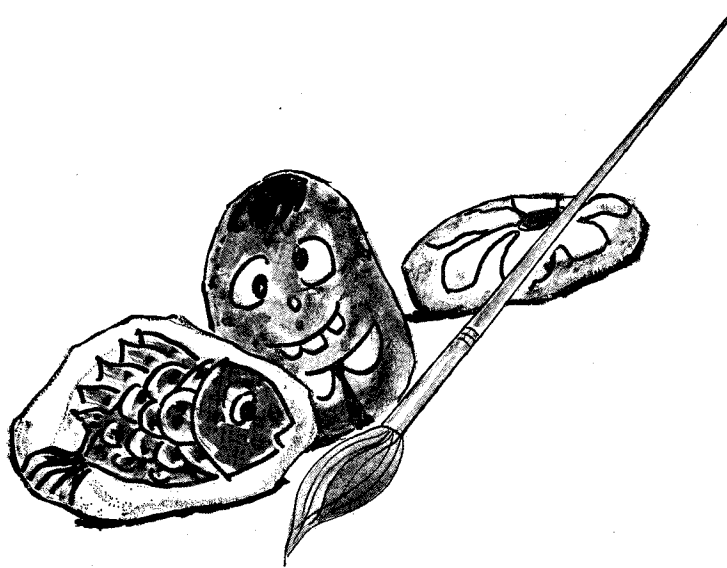
「グラスゴーに行くときひいおじいさんマクドガルのバック・パイプを使ってくれない。それは家の居間のテーブルの上にさびしくおかれているんだ」

「きみは、ひいおじいさんマクドガルのあのすばらしいバッグ・パイプを、グラスゴーのコンテストのために、ほんとうにかしてくれるのかい。あんな立派な楽器を使ったら優勝しなければならないね」

「そうだとも。きみにぜひ優勝してほしいな。」とジェミーもしあわせそうに言いました。この時ジェミーにはほんとうに心からそう思いました。

さし絵：ジェリー・ハーストン

石 あ そ び



あなたは誕生日に、お友だちに特別なプレゼントをする
あ
のが好きですか。

石にペンキをぬってごらん下さい。

まずはじめにかわっていておもしろい形の石を見つけなさい。あなたの家のうら庭か、ハイキングにいったとき森の中か小川のほとりをさがしてごらん下さい。

道におちている石はペンキがぬりやすく片側が平らの石は置いておくのに便利です。表面はなめらかかザラザラしているでしょう。でこぼこなもの、ひびのはいったもの、またはとがったものなどはよく動物や花、またはおもしろい顔などの形を思わせます。

デザインは簡単なものにしましょう。まずはじめにこいエンピツかチョークかクレヨンで、したがきをかきなさい。

速乾性防水樹脂塗料（高分子系かアクリル性のもの）を用いるのが最も効果的です。ペンキは吹きつけるかまたはラッカー仕上げをするとながもちします。

小さな石は文鎮としても使えます。大きな石はドアのあおり止めに使えます。このようにペンキをぬった石は彫刻や置物のようでおくりものにしてもすてきです。

ペギー・ジェイゼル

国を 愛する心

管理監督

ジョン・H・バンデンバーク

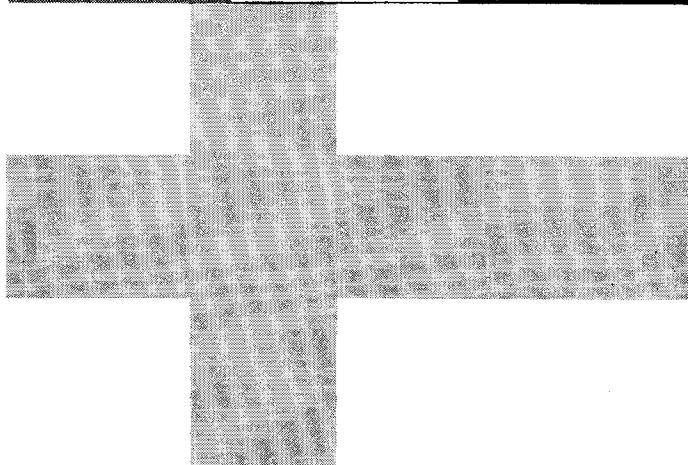
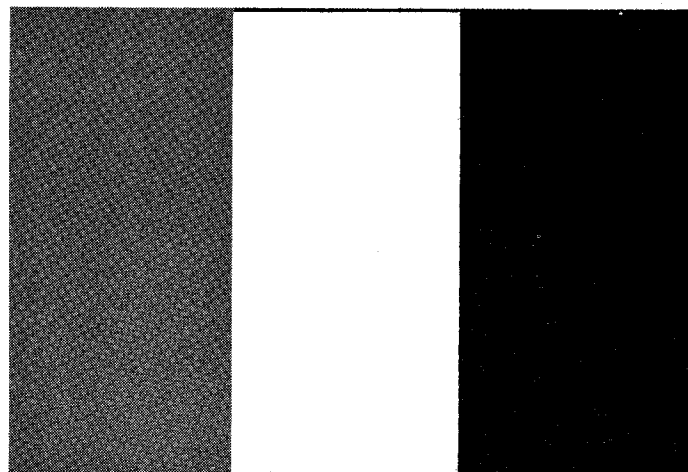
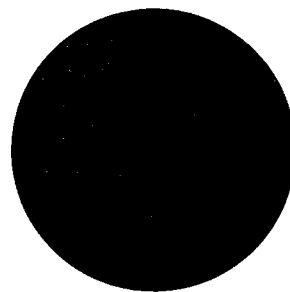
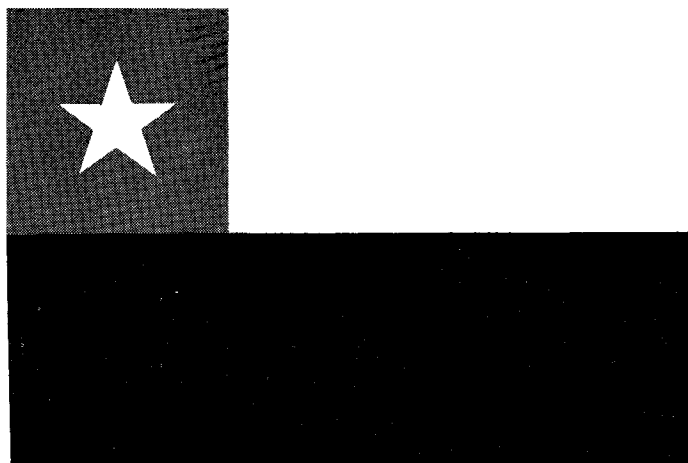
「もしも歴史が変わっていたら」という本の中で、J・E・チェンバレンは過去の重要な出来事のいくつか、ちょっとした判断や状況の違いによって変わっていたらどんな結果になっていただろうかと述べている。

同じようなテーマで近い将来についての本が書かれるとしたら、我々の今の時代こそ最もその「もしも」を必要としている時代であることがはっきりするだろう。

我々が混乱した世の中に住んでいることは容易に理解できる。恐るべき勢いで不法がはびこり、市民は自分たちの町で暴動を起こし、若者は将来に対する責任を破棄するよう扇動されている。いたるところに問題があるように思われる。しかし我々は、そのような事態にも望みを失ってはいない。そこに希望を与えるのがあなたがた教会の若人なのである。

国家が国内問題や国際問題を解決するには、しっかりと正義に基づいた信念を持ち「主のみたまのあるところには、自由がある」（欽定訳Ⅱコリント 3：17）ことを知っており、勇敢な国を愛する心を持った若者がいなくてはならない。国家は、人々の神に対する信仰によって強くなるのである。

ジョージ・ワシントンは、神の導きがあることを知って次のように述べた。「宗教と道徳は、政治を繁栄させるにあたり、必要欠くべからざるものである……理論的にも経験から言っても、宗教の原則な



くして人々の道徳が広く行きわたることを期待してはならないことを私たちは知っている」(ワシントンの離任演説)

リンカーンもまた、一国の強さはその国民一人一人の義より生じるものであることを知っていた。

「神はこの世を治めたもう。神の支配力に信頼を置くこと、謙そんさと悲しむ心を持って己が罪を告白すること、神を主として崇める人々のみが祝福されるという崇高な真理を知ること、これらは我々だけでなく国家の責任でもある。」

聖書には「正義は国を高くし……」箴言14:34)と記されている。一国をそのぬかるみから引きあげることができるのは個人個人の義によってである。すべての国家は正しい信念を持った若者を必要としている。

個人の義なる力は計り知ることができない。歴史上幾度となく、ただ一人の人の義によって国が起こされてきたのである。

19才の農民の娘ジャンヌ・ダルクはフランスを徹底的な敗北のぬかるみから引きあげ、あのすばらしい勇気によって軍隊を勝利へと導いたのである。

ニーファイ人の予言者モルモンは、墮落したニーファイ人国家の軍隊の指導者に選ばれた。彼はわずか16才にすぎなかったが、その義のゆえに指導者として任命されたのであった。

若い羊飼いだビデは、神のみ力を信じて谷へ降りて行きゴリアテという巨人に立ち向かったのである

ニーファイ人の軍の司令長官モロナイは、謀叛のために国家が分裂するのを知って「自分の衣を裂いてその一片をとり、その上に『われらの神と宗教と自由と平和と妻子のために』と書いてこれを竿の先にかけ、かぶとと胸当てと盾とを身につけ、物の具を腰にまとい、裂いた衣の一片を先端につけた竿を(これを自由の旗と言った)手に持って地面にひれ伏し、クリスチャンの仲間がのこってその地に住む間は、自分の兄弟である教会員らにひきつずき自由の祝福を下したまわるようにひとえにその神に祈り

願った。……それであるから、モロナイは祈りの時にクリスチャンの道と国の自由とのために、特に神の助けがあるように祈ったのである。モロナイは、その心をうちあけて神に祈り願ってから、デソレションの地の南にある一帯の地と、デソレションの北にある一帯の地とを貴い自由の国と定めて次のように言った。『キリストの御名を受けたために嫌われるわれらが、自分の罪悪で自ら亡びを招くようになるまでは、神は決してわれらが踏みつけられまたは破壊されることを許したまわない』と。モロナイはこうに言うてから民の中に行き、衣の一片に書いた言葉がすべての人に見えるようにこれをふり上げ大声に叫んで言った。『この地にこの旗を立ててこれを守ろうと思う者は、みな主の御力によって出て来い。そして、主なる神の祝福を得るために自分の権利と宗教とを護るという誓いを立てよ』と。」(アルマ46:12~13, 16~20)

他にもまだあげられるがこのような人々はみな、一国の強さを守るために個人個人の義が重要なことをはっきり教えている。強固な国家をつくるための主義にそって、私々自身の生活することが、国家に対して示すことのできる最高の方法である。

ニーファイの時代のモロナイ、古代イスラエルのダビデのように、我々は国家に対して、また国家を強く保つ主義に対して堂々と忠誠を宣言する勇気を持たなくてはならない。

教会の若人は、このチャレンジに満ちた時代にどのように立ち向かっていくかを知っている。その道は明らかである。故デビッド・O・マッケイ大管長はその道について次のように述べている。

「この不安な時代にあって、自由を愛する人々の最も大きな責任、最も大切な義務は、個人の自由、神と個人の関係、およびイエス・キリストの福音の原則に従順であることの必要性を主張し守ることである。このようにしてはじめて人は平和と幸福を見出すのである」(インプルーブメント・エラ1962年12月号P903英文)

汝自身を 知れ

ギリシャには「汝自身を知れ」というよく知られた格言があります。その国の文学や哲学の多くはこの格言に基づいていました。あなたはどれだけよく自分のことを知っているでしょうか。自分自身を知る秘訣は、最も内部の自己を考えてみることです。自分自身と自然を少しでもよく知

汝の友を 知れ

あなたは他の人々とどのようにうまく交際していますか。あなたは彼らに本当のあなたを知ってもらい、本当の彼らを知ろうとしていますか。

ほとんどの人は、他の人々に投影する理想的な自分の姿

神を知れ

キャサリン・ピーターソン

あなたは日の栄の王国に入りたいと言うのですね。本当にできると思いますか。できるとどうしてわかりますか。日の栄の王国に住むということは神々になるというだけでなく、神と共に住まうことなのです。しかも永遠にそれは実に長い期間です。あなたは本当にそのような生活をしたいと思いますか。本当にそのように長い間神と共に生活したいと思いますか。その確信が持てるだけの神に対する知識、神のなされた生活をよく知っていますか。

ろうと、ニュー・イングランドのウォルデン池のほとりの小屋で数か月間暮した哲学者ヘンリー・デビッド・ソーローは、自己を知ることについてこのように言っています。

「未知の海や太平洋、大西洋をたった一人で航海するよりも、500人の助手の乗っている官船で寒い嵐の中を、あるいは人食い人種の住む所を何千キロも旅をする方がはるかに容易である。」

ではあなた自身の「未知の海」を航海したと考えて下さい。すなわちあなたの最も内部の思いと感情を考えて下さい。そこに見えるものを認めることができますか。あなた自身に正直に立ち向かうことができますか。

「自分自身に正直でありなさい」という若者へのチャレンジとして、大管長会から数年間一連のポスターが配布され→

を持っているものです。しかし私たちは、しばしば投影機が、姿を写し出す以外何もできないということを忘れがちです。そして写し出される実物は理想の姿とはるかに違うのです。

あなたはどれほどよく自分の姿を表わしていますか。

あなたは、筋骨たくましく天才の素質を持った理想的なタイプに見え、また聖餐会での話に多くの人々から賞讃の言葉を受けながら、月曜日にはロッカー室で友だちの言う下品な冗談に大声で笑うような人を知っているかもしれません。彼の話から受けるイメージと彼の行ないにはなんとという相違があるのでしょうか。あなたはこのような矛盾を生み出してはいませんか。もしそうであれば、あなたは素直に自分の誤ちを認め、それらを正そうと努力していることを知ってもら→

日の栄の王国に入りたいと思うなら、私たちは神を知らなくてはなりません。私たちは聖典から神のなされた生活の一部を知ることができます。そして福音の（神の）原則が真実かどうかはそれらに従ってみることによって非常にはっきりしてきます。しかし神になるということを本当に理解するためには、すでに神となっている御方を親しく個人的に知らなくてはなりません。

来年あなたが大学に行こうとしていると仮定して下さい。その大学に行っている人から事情を聞きたいとは思いませんか。またうまくやっていくために、だれがルームメートになるかということも知りたいと思いませんか。どんな生活が待っているか、どんな人々と一緒に生活するかをいく分知りたと思うでしょう。

では、もし私たちが主を知らなければ、主が私たちに語→

ました。どのポスターも自分に対して正直であるようにという原則を説いたものでした。彼らが新しい言葉を掲げるたびにあなたはそれを笑顔をもってながめるだけでなく、それ以上のことをしましたか。その考えをどの位自分の生活に応用しようと務めましたか。自分自身に対してどのように正直でしたか。

私たちにはいわゆる心理学者のいう「逃避機制」というものがある、人生で困難にぶつかるとこれを用いるのです。これらの逃避機制というものは、ごく正常なもので、私たちが不完全な世の中に自分を適応させようとする際に必要になる場合が往々にしてあります。しかし私たちはあまりにもしばしば「言訳」とも言える「現実逃避」をする傾向があります。自分をあざむいて正当化し、正直な自分が語っている

ねばなりません。

あなたはどれだけ積極的に本当の自分を知ってもらおうとしていますか。すなわち自分は完全ではないということだけでなく、自分も一個の人間であって必ずしも「民衆」と同じになりたいとは思っていないことを知ってもらおうとしていますか。本当のあなたはあまりダンスを好まず、むしろピクニックの方が好きだということを、またロック調の音楽よりもクラシックを、人気のあるフォークソング歌手よりもベートーベンが好きだということを進んで伝えようとしていますか。

あなたは正直に、もう少し自分の本当の姿を見せようとしていますか。あなたはあなたをあざけり拒む人もいるでしょうが、同時にこういう人であって欲しいという人ではなく

りかけられる時どのようにして主のみ声に気づくことができるでしょうか。主は必ずしも一人の人が他の人に話しかけるように話されるとは限りません。「その静かなる細き声」(教義と聖約 85:6) は、実際の声というよりも、私たちのなした判断が正しいという平安な感じである場合が多いのです。中には夢の中で答えを与えられる人もいます。また、父親の祝福を通して答えを受ける人もいます。しかしどのようにして主の靈感と悪魔のはかりごと、そしてあなた自信の望みを区別することができるでしょうか。ある物を部屋のどこかに隠して、一人が目かくしし、一人は本当のことを言ってそれを見つけさせるようにし、もう一人はうそを言って隠されている場所から遠ざけようとするゲームを前にやったことがあると思います。あなたに本当のことを言って導こうとした人がわかりましたか。もう一人の本当の真理の導き手である

ことをまるで愚かなことであると考えてしまうのです。

たとえば、やせたいと言いながらもなおチョコレートや甘いチェリーパイなどを食べ続けているのです。やせたいということに対してあなたは自分にどの程度正直でしょうか。あなたは正直に言って本当はやせるよりも食べ過ぎて太る方を望んでいるのではないのでしょうか。

あるいは今年、チームの中であまり試合に出なかったかもしれません。選ばれることもなかったかもしれません。それはだれのせいでしょうか。コーチのせいですか。彼は人を見る目がなかったのでしょうか。それともコーチがえこひいきをしたのでしょうか。あなたは正直に言って本当にじょうずでしたか。十分練習に励みましたか。

あるいはまた、だれにもダンスに誘われず、どうして男

本当のあなたを好いてくれる人々とより親密になり、真の友情を深めることができるものです。

またあなたは本当に、他の人々が映し出している姿を見えていますか。あなたはそれが映像なのか実際の姿なのかわかりますか。彼らが問題を持っているときや成功したとき、彼らの話に耳を傾けますか。私たちのほとんどがそうであるように、おそらくあなたも彼らの話していることよりも次に自分が何を言おうかということの方が気になることでしょう。あなたにとっては、あなたを「相談相手」と思っている8才の妹の話に耳を傾けることよりも、数学の問題やギターのコードの方が、ずっと重要なことのように思えるかもしれません。数学の問題やギターは本当にそれほど重要なことでし

神がわかりますか。どういう御方であるかをよく知らないうちは恐らくわからないでしょう。

祈りと心からの対話によって神を知ることができます。あなたが親友に話を打ち明けるときのように心から神と対話することができます。そしてどんな形にしろ必ず答えが与えられるのです。古代の予言者も現代の予言者も共に、主と話を交わしたことを記しています。ダビデ王の詩篇やリバティーの牢獄でのジョセフ・スミスの祈りはその一例です。予言者ジョセフは、暴徒たちの迫害がしだいにひどくなっていることを知って、苦しみながらこう叫んだのです。「おお神よ、汝は何処に在したもうや」主は答えて言われました。「わが子よ、汝心安かれ……『人の子』は一切これらのものの下に身を落したり。汝は、彼より大いなるか」(教義と聖約 121, 122 参照) この人々は主を知っていました。→

の子たちは着飾った中にいる本当の女の子を見ようとしなければ、いつか恋をもてあそんでいる女の子よりも自分の方がどんなにかすばらしいデートの相手となるのにどうして気づかないのだろうか、という考えながら家のまわりをぶらぶらしている女の子がいるかもしれません。正直に言ってあなたは時々男の子も人間であり、しかも彼らは週末にただあなたと出かけたいためにいるのではないということを忘れてはいませんか。また男の子たちといっしょにいて堅くなりおどおどしてしまうのは、あなたが彼らにどんな印象を与えているかということに、あまりにも気をとられすぎているからではありませんか。自分から相手を好きになるのではなく相手の人に気に入られ誘われたいとばかり思っているのではないのでしょうか。デートの相手としてではなく普通のノ

うか。

あなたは理想的な姿ではなく本当の自分を表わしており、また、正直に他の人々を知ろうとしていると感じるかもしれません。それでは、そのような考えでできた友人間の絆についてどのように考えますか。あなたが級友や妹と話して「あなたは私の体重が5キロもふえたって冗談で言ったけど、とても感情を害したわ」と言い、また「ごめんなさい。そのこと気づけばよかったわ」と言って素直に誤り、互いにはほえみ、知り合い、愛し合うことによって本当の意志の疎通が行なわれることがあるのです。

あるいはまた、数回デートをしてとても楽しい思いをし、相手の男性をとてもしつこい人だとは思いつつもそれ以上い

しかし、私たちは主とそのような言葉を交わすために王や予言者となる必要はありません。私たちでも主に話すことができるのです。また問題だけではなく、私たちの計画や日々の生活にあっての喜びをも話すことができるのです。

さらに、主をよく知るためには正直に主に語りかけるだけでなく、正直に主の言葉に耳を傾けることが大切です。ある女子学生は、デートの誘いに応じる前に必ず主に相談し、主のみ声に聞き従いました。そして今彼女は主が「しなさい」と言われた時にデートをした相手と結婚しています。彼女は主のみ声に耳を傾け、その通りにしたのです。

最後に、もし私たちがちょっとしたことで主と対話し、主のみ声に留意するならば、大きな問題が起きてもそれほど困まることはありません。幻覚剤を濫用していたある人がこの悪習をやめようと五度も試みましたが、しかし彼はちょっ

男性として、あなたがどんなにすばらしい印象を受けているかを彼らに気づかせようとしていますか。

あなたは正直に言って、一人になりじっくり考えながら自分にこう問うていますか。「私はどういう人間だろうか。なぜそうなのだろうか」あなたは神の子供であると同時に、誤りに陥りやすい人間なのです。もしこうありたいと思う自分よりもわずかでも不完全な状態にあると気づいたら、あなたはそこに腰をすえてしまいますか、それとも自己を改善しようとしますか。「方向を変えなければ、今行こうとしている所へいつかは必ず行きつく」というよく知られた言葉があります。自分の方向をもう一度じっくり考えてみて下さい。そしてあなた自身を「正直」に知って下さい。

いっしょにデートをしたくないと思った場合、あなたはどのように自分からそのことを伝えますか。相手の感情を害す恐れがあるので相手の人がそれを受け入れられる人かどうかをよく考えなくてはなりません。しかしあなたの正直さが貴い友情、うそ偽りがなく生涯を通して大切にできる友情を育てるものになるということを知るに違いありません。

二人の交わりは、あなたにとっても相手にとっても危険性のあるものです。しかしそれだけの価値があります。正直に言って、あなたはどれだけそれを試みようとしていますか。

としたことで主に願い、主を知るようになってはじめて、「まっすぐ」歩めるよう真心から主に求めることができたのです。今では彼は幻覚剤ではなく、福音の喜びに浸っています。「ありのままを主に語り」、主のみ声を聞くというその方法は幻覚剤の問題だけでなく、少年少女、両親、学校その他のあらゆる問題にも適用できます。

これらすべてのことに対する鍵は何ですか。それは正直に主に話しかけ、耳を傾けることです。日の栄の王国に入るといことは、永遠の生命を得ることであるということに心をとめて下さい。「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがたがかわされたイエス・キリストとを知ることであります」(ヨハネ17:3)

あなたは正直に言ってどれだけよく神を知っていますか。



ほんとうの
生きる喜び

イレイナ・ルイス・バーバー※

その虫はしっぽを木のどこかにはさまれたように身をよじらせた。自分のかみ砕いた跡が細かな模様を作っているのも知らずそのあごは穴の端の所でたえず動いていた。

一人の少年が目を細めてその虫を眺めていた。彼はその虫が夏の日射しを受けすぎ、山の松の匂いに酔ったのではないかと思った。その模様はちょっと変わっていた。全部茶色で所々濃くなっていた。もっとそばで見ようとして彼は松の木に膝をついた。虫はかむのをやめ、不安げに身を持ち上げて10センチほどはなれたところにある少年のソバカスだらけの鼻をみた。少年は心の中でくすっと笑い、空を見上げた。日は暖かく、空気は澄み、大きな雲が真近にあった。彼は空を飛んで、雲の上に乗ってみたいとよく思った。綿の大波のような雲の上で飛びはねている自分をよく思い浮べた。

彼は鳥のように空を飛んでみたかった。ある日彼がベランダから空に飛び上ったら、両親はどんな顔をするだろうかと考えてみた。たぶん彼らは息子を誇りに思い、普通と違うこの子はたいしたことやるなと認めてくれるだろうと彼は思った。雀が彼の頭上の木に降りてきて、その枝は大きく揺れた。その小さな雀は体のバランスをとろうとしてはばたいた。それを見て彼は愉快に思い心の中で笑った。

「小鳥よ、小鳥

どんな音をお前は聞いているの。

母なる自然の緑の中をさまよって
お前は何を見ているの。」

その言葉は自然に心に浮んできた。詩だけが、喜びを表わすただ一つの方法であった。そして、その詩を何度も何度も心の中でくり返した。

彼は立ち上がり、体を精一杯のぼした。若さと、活気と、健康と泉のようにわきでてくる自由を感じた。すべてが黄色と緑で暖かった。彼はまるで空を飛び上るかのように山腹を走り出した。そして草原や彼の家や谷を見降ろす岩の崖まで走り続けた。

彼は10才と思えないほどの勢いとスピードで登り、ついに頂上について止まった。そして腕を高く伸ばし、目を閉じた。その時心の中は生きる喜びで一杯だった。

一羽のわしがえさを求めて頭上をゆくりと優雅に旋回していた。少年は目を浴びた岩の上にあおむけになり、あのわしの飛んでいるところからは世界がどのように見えるか想像しながらそれをながめた。

「ああ、わしのようになって

そびえ立つ岩山にすわり、

おもしろいことはないか、おいしいものはないかとあちこち捜してみた

い。
霧の谷、深い峡谷、大きな松の木のまわりをまわってみたい。」

彼は心の中でまた笑い、その鳥に詩をささげた。彼はそこにどれ位いたのか気にもかけなかった。ただ自分が周囲のものと完全に身も心も一つになっているのを感じた。そして見知らぬ人が、私の岩の上にある小さな肉体を取りさり、山に住みなれた野生の生き物に変えてしまったように感じた。それは暑い7月の太陽にとっふりとつかっていた。

時間がたち、少年は「夢みる岩」をはなれ、急いで家に帰らなければと思った。岩山をかけ降りた。そして周りの静寂を少し味わおうとして立ち止まった。

「ぼくは鹿だ。いや一番美しい雄鹿な

んだ。」それから彼は山を降り、あの虫のいた丸太を通り過ぎ、草原を通りすぎ、門を通過して広い玄関についた。

彼はハンモックに乗り、ゆらゆら揺れて、ハーハーと息をしながら涼しい木影で休んだ。左の方にバラの匂いがした。そばかすだらけの手をあげて思いきり空気を吸いこんだ。

ああ太陽、そよ風、山の松の木の匂いがする。彼は心の中ではほえんで足を動かした。ハンモックが前に後にきしんだ。

家の中では母親が客とすわっていた。そしてハンモックの音を聞いて少年が家にもどっているのを知った。母親は悲しげにはほえみ、その友だちも同情してほえんだ。

「お医者様は望みがないとおっしゃるの。」

「ええ、一生口がきけないらしいわ。」

「かわいそうに」と母親の腕にやさしくふれて友だちは言った。「ほんとうの生きる喜びを知らないで生きていくなんて。」

お母さんはうなずいた。

※

イレイナ・ルイス・バーバー

20才。この作品によりエラの1970年度青少年作品コンテストに入賞し、ブリガム・ヤング大学の全額支給奨学金を勝ち得た。

証の力

十二使徒評議員

マーク・E・ピーターセン長老



改

宗は教会におけるすべての教えの究極の目標である。

これが私たちの目標でなければ、私たちは教師として、またクラスの指導者としての目的を失う。そしてもし私たちがそれぞれの教師としての目的を失うならば、私たちが責任を受けているすべての組織もそれを失うのである。

教室や説教壇は「公開討論会」のためにあるのではない、すなわち討論の場ではない。それらはまた、教師がいだいている個人的な考えや解釈や意見を述べる場でもない。

教室や説教壇は福音を学ぶセンターである。それらは心を動かし、人々を主イエス・キリストの福音に改宗させるのに用いる施設である。

ローマ人へ述べられたパウロの言葉はいつも私たちの記憶に残っている。

「……主の御名を呼び求める者は、すべて救われる……しかし、信じたことのない者を、どうして呼び求めることがあろうか。聞いたことのない者を、どうして信じることがあろうか。宣べ伝える者がいなくては、どうして聞くことがあろうか。つかわれなくては、どうして宣べ伝えることがあろうか……」（ローマ10：13-15）

クラスに出席している人は皆、教えといまいっそうの改宗を必要としている。福音はその含みも適用範囲も非常に広く、また知るべきことが非常に多いので、だれ一人として福音のすべてを学び尽くしてはいない。だから、すべての人が福音を教わる必要がある。

クラスに出席する人々はしばしば、レッスンから得られる義のか弱い種を非常に「飢えかわいて」求めている。（マタイ5：6参照）クラスの教師は、オーソドックスで正確で、かつ空想の全然入らない適切なレッスン教材を用いて、その必要を満たす責任がある。

よいレッスンでは、話すのみでなく視覚教材も適宜用いられ、聖典の引用はいつのレッスンでも欠くことのできないものである。レッスンで確実な目標が定められねばならない。また私たちが教える際に聖典をよく用いれば、その質が向上する。

しかし私たちが求めている改宗をクラスの人々にさせるためには、もう一つの要素が必要である。それは証である。

新しい改宗者は、教会に加入するに当って何に最も影響されたかと問われる時、ほとんどいつも「宣教師の熱意と心からの証です」と答える。

私たちはクラスの教師として宣教師である。もし私たちがクラスの人々を私たちが教えている教義に改宗しようと思えば、私たちは宣教師がその分野で使うのとまったく同じ証の力を使わねばならない。

「教えよ——証せよ——バプテスマを施せ！」

これは宣教師の取る方法である。これはまた、私たちがクラスを導く際の方法でもある。

近頃「目を見て」教えるということについて多くのことが述べられているが、これは非常に効果的である。しかし献身

的な教師がクラスの人々の「目を見て」証をしなければ、この方法といえども決して完全ではない。

レッスンが効果的にかつ納得のゆくように行なわれる時に、それは教師が真心から述べる「私はこれが真実であると皆さんに証します」という証に対する大切な支えになる。

世の非教会員はこの方法によって改宗される。これは同じくクラスに出席する人々を改宗したり、再改宗したりする効果をも持っている。

特別な力が心からの証に伴う。主は心からの証を通じて、あなたがたに偉大な力を持つ主のみたまをそそがれるのであ

る。私たちが世の宣教師として私たちの家族に証を述べようと、あるいは日曜学校のクラスの人々に述べようと、この力は私たちに伴うのである。しかし証のない教えが実際に真実と聞こえるだろうか。

もし証が私たち自身の胸に燃え、その上もし私たちがそれを恐れず勇気をもって述べるならば、ふさわしい影響力をもつのである。改宗が行なわれ、それと共に、従うすべての人に救いがもたらされるのである。

これが私たちの証である。

求めよ そうすれば与えられるであろう

——マタイ 7:7——

ジョアン・A・ウォンドラ※

私は宗教的教育を何も受けずに成長した。天父について、また贖い主についての様々な混乱した話すら聞いたことがなかった。それにもかかわらず、小さな子供ながら目に見えない神聖な方の存在についてひじょうに強いはつきりした意識を持っていた。その方は愛する父と同じように私に関心を持ち、私と私のすべての望みを理解してくださる方であった。この存在は私にとって何か現実的なものであり、私は子供の頃、必要としたものや私の問題をすべて相談した。しかし、私は次第に私を守ってくれたこの方を忘れはじめた。大学時代、末日聖徒イエス・キリスト教会の二人の宣

教師が私を訪れてくれるまで私は神について抽象的な概念しか持っていなかった。私がノックに答えてドアを開けた時、彼らは「私たちは、あなたに神からのメッセージを持ってきました」と言った。

私はこの訪問に対する心の準備はできていた。長い間、真理を捜し求め、熱望していたからである。もはやこれなしで生きることはできなかった。私は真理は存在し、見い出せるだろうと思っていた。

「私はあなたに神からのメッセージを持ってきました。」二人の宣教師のそれだけの言葉に私は深く感動した。私はジョ



セフ・スミス話を聞いた。彼らは私にモルモン経を置いていった。私はそれを一気に読み、以前に経験したことのない、言いあらわしがたい喜びの気持ちで一杯になった。

まさにこれは真実であった。子供の頃感じていた方がおられ、天父がおられ、私は天父の子供であり、天父が私の永遠なる父であることを知って、私は言うに言われぬ喜びを感じた。

私は暖かい、平和な、幸せな気持ちで一杯になった自分のバプテスマの日をはっきりと覚えている。あの時私は天父と贖い主をよく知り、御二方にもっと近くなろうと決心した。私はジョセフ・スミスがジョン・テラーに神のみたまの命令に心をとめるよう話した言葉を通してその方法をはっきり理解した。

「みたまがあなたにささやくことに耳を傾け、それをあなたの生活に取り入れなさい。それは啓示の原理となり、それによってあなたはみたまの力を知り、理解できる。」とジョセフは言った。

私は神のみたまの命令に心をとめるよう自分自身を訓練し始めた。私は聖句を読み、祈り、聖霊に耳を傾けながら美しいヴィエナの森をきまって散歩し、聖霊が私の心の中にささやいたことを書きとめた。人が外国語を練習する時のようにこのことを行なった。

ある日私は多くの問題に心を悩まされ、主に答を聞くため近所の山に登ろうと決心した。途中、私を悩ましていることすべてについてのリストを作った。それは詳細に完成された長いリストであった。この仕事を終え、満足して、私はまわりの自然の美しさを楽しみ始めた。主がこの美しいものをすべて支配し、生命を与えておられること、すなわち主が律法を定め、主に従ったすべてのものをそれぞれの複雑な働きをするにまかせておられることに私は心を強く打たれた。私は神の御計画がわかりはじめた。そこで個人的なすべての問題を解決できるよう神に頼むことをやめた。山頂に着いた時、私は自分の多くの問題を解決するのに必要な知恵と力を与えてくださいという一つの願いのみを神に祈り求めた。そして私は人生における多くの祝福を神に感謝した。その時私は「私は道であり、真理であり、命である」(ヨハネ14:6)という声を聞いたように思った。私が山を降りた時、多くの問題は消えていた。私は神聖な力に満たされ、また神の子供すなわち血統であることが実際に何を意味するかがわかった。

初めてモルモン経を知って以来、私はリーハイの息子、ニーファイに敬服している。私はよく彼と兄のレーマン、レミエエルとの違いについて考えた。この違いを理解することは

私にとって非常に大切であった。というのは、それはリーハイのように教会の大家族を導く私達の予言者に対する私たちの態度の尺度のように幾分思われた。「つぶやく人」でなく「建設する人」の中に数えられるためにニーファイが何に基いて行動したかを知ることが私にとって大切であった。ある日ついに私は知ったのである。そのはっきりした違いは、ニーファイが、彼の父のように聖霊の力を通して啓示を証しいと望んでいたが、それに反して彼の兄たちは啓示について論じることを望んでいたという事実であった。(I ニーファイ 10:17—19; 15:1—11 参照) このようにしてニーファイの人生は自分の啓示のうえにうち建てられた。彼は啓示を知り、それを受けたのである。そこで私は生きている予言者の言葉に耳を傾け、彼の言葉を研究し、それらについて祈り、いかにしたらそれらを私の生活に取り入れることができるか祈ろうと決心した。こうすることにより、私はすばらしい経験をし、また神は代弁者として予言者を使って私たちに実際に話しておられるという確固たる証を得た。

1968年4月の教会の一般大会の放送は私にとって忘れられない経験だった。私と妻は6か月の娘がガンの末期の状態で寝ている病院からでてきた。ガンはすでに脊柱にまで達していて、肝臓は2倍にはれていた。この分野の専門家であった医者がもう望みはないと告げた後であったにもかかわらず、私はその子を祝福する時その子は生きながらえ、回復するであろうと約束した。私たちの愛する予言者デビッド・O・マッケイの大会のメッセージを聞いたのはこのすぐ後であった。彼はイエス・キリストの神性とラザロが死からよみがえったことについて話した。私たちはこのメッセージを聞き、もう一度主の力を信頼した。私たちはひじょうな感謝をもって、「感謝を神にささげん、予言者の導き、末日に福音を」と歌った。

私たちの娘は完全に回復し、今はどの点から見ても健康である。

神は真に私たちの愛する御父である。神は私たち一人一人に関心を持っておられ、人を片寄り見られず、むしろ私たちの心の中をのぞいておられる。神は私たちを愛しておられるので私たちがみもとに行き祝福を受けるよう望んでおられる。だから神は私たちがみもとに行くのを助けるため生きた予言者をおつかわしになられたのである。

※ ジョアン・A・ウォンドラは1958年11月30日バプテスマを受け、それ以来活発な教会奉仕を続けている。ウィエナ大学出身で、ウィエナ・パーク劇場の副支配人である。妻はウルスラ・ティッシュホーサーで3児に恵まれている。

一兵士の祈り

カーラ・サンソン

私は戦争で破壊された建物の中で一人、オルガンの椅子にすわっていた。私たちはその建物をドイツ、ハンブルグの礼拝堂として使っていたのだった。私はそこで讃美歌「神よ汝に近寄らん」を練習していた。丈夫な屋根の3分の1は爆弾により破られ、アツセンブリーホールの上に大きな穴となつてこなごなになってぶらさがっていた。残っていたのは教会員の集まれる集会所の部分だけであり、それだけでも破壊されず残っていたのはとてもありがたいことだった。それは1944年も終りの頃であった。ドイツはすでに手痛い損害をうけており、連隊は合流し、ロシア軍の侵入の嵐をくい止めるため東方に移されていた。

美しい金色の夕日が私の弾いているオルガンの鍵盤の上に輝いていた。港や鉄道の駅、街からの騒音などが天井の穴を通して入ってきた。しかし私は神が近くにおられることを知り主の平安を何度も感じる事ができた。

こんなことを考えている時、強くドアをたたく音がして、その後何度も続いた。私はそのノックのあわただしさに驚きドアに急いだ。軍服を着た一人の見知らぬ若い陸軍中尉が私の前に立っていた。彼はまえに見たこともない人だった。彼の賢そうだが、疲れた顔を見た時、彼は私に言った。「失礼します。あの……オルガンの音を耳にしたので……。私はスハルト中尉です。つまりウィエナ出身のハンス・スハルト兄弟です。」彼は細い荒れてガサガサになった手をしていた。「あなたは末日聖徒でしょう。」私はうなづいた。「私の連隊は駅で列車を乗り換えていました。その時プラットホームでよく歌ったことのある美しい讃美歌を耳にしたのです。それで私はその音の聞こえる方をたどって、この建物にきたのです。」

そんなことがあり得るだろうか！と私はまず思った。その駅は300メートル余り離れており、オルガンの音は騒音に聞き消されて聞こえるはずがないと思った。

「この場所を見つけてどんなにうれしいか。」彼は言い続けた。「私達は一時間でここを離れます。私はお祈りをしたいのです。」ちょっと間を置いて、私の目をのぞきこみ「私と一緒に祈りをして下さいますか」と尋ねた。

一瞬私はびっくりしたが、彼を礼拝堂に案内した。私は少しの時間が欲しかった。再び私はオルガンに座り、なれ親しんだ曲を弾き始めた。

兵士は階段に座り、目を閉じた。

彼は私と一緒に祈ることを望んでいる。

もし彼が少女だったらいいのだけれど。しかし、彼はあなたの兄弟なのだと告げる何かが私の胸にあった。そして今彼

は信仰を共に分かちあえる人との祈りが必要なのだ。

私の手は疑いを解かれたかのように鍵盤を押した。若い兵士ははっきりとした美しいテナーで「神よ汝に近寄らん」を歌い始めた。

彼はオルガンの椅子に寄ってきて、私のそばに座った。それまであった警戒心がしだいに消えていった。私達は全部の歌詞を歌い終えた。「神よ汝に近寄らん、十字架の上あがるも、なおいわが歌……」私は彼が泣いているのに気がついた。

「あなたは今まで死を恐れたことがありますか。」と彼はたずねた。

「いいえ、ありません。」彼は続けていった。「私はもうすぐこの戦場で死にます。」「そんなことをいってはなりません。あなたは戦争でひどく疲れているのです。そのように考えるのも無理はありませんが」そうは言ったものの私はどうしたらよいかわからなくなった。

彼は長い間、考えていたがやがて、オルガンの椅子から立ち、ひざまづいた。「お願いします。」彼は私も共に祈るように促した。

私は彼のそばにひざまづいた。それから兵士は神に心をうち明け始めた。彼がどれほど神を愛しているか、彼にとって福音はどれほど大切であったかを神に告げた。彼はその祈りの中で戦場にいる間、多くの慰めを受け取ることができたが今彼の気持は自分の命がもう地上に長くないのだと知って重くうちひしがれていると言った。彼は真理と正義の教師として生きたいと思っていた。しかし死ぬことが神の御心なら来世にもまたやるべき仕事があることを知り喜んで死んでいきたいと言った。

私の目は涙で重かった。今度は、私が天父に祈る番であった。私はもはやこの兵士が見知らぬ人であることをすっかり忘れていた。彼と同じように私は心の内を開き神に祈った。そして神の存在をはっきりと知ることができた。「アーメン」と言い終った時、私は兵士の顔を見た。

「姉妹、神があなたを祝福されますように。」彼は私の手をとって言った。「今、気持はずっとらくになっています。」

私はその後、その兵士に会うことはなかった。しかし私は彼がどこにいても神のそばにいるということをよく知っている。

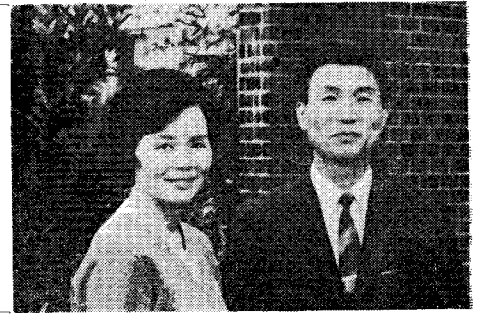
この経験は「幼な子らをそのままにしておきなさい。わたしのところに来るのをとめてはならない。天国はこのような者の国である」(マタイ19:14)という救い主のみ教えの真の価値を私に教えた。良き隣人となるために、また人類は皆一つ家族であるという気持になるためには、私たちが幼な子のようになることが大切である。

私たちは人の心と心をつなぐ架け橋となるように自分自身を用いる心がまえを持って主に仕えねばならない。

カーラ・サンソン：カリフォルニア州、パシフィック、バリセードワード部所属。ドイツ、ハンブルグで育ち、そこで第二次大戦にあった。現在、西ドイツ伝道地で働く息子がある。



日本西部伝道部 だより



新しい年の始めにあたって、過ぎ去ったこの一年をふり返ってみると、多大な祝福を受けていることがはっきりわかります。

聖徒は福音に基づく愛と親睦によって強く支えられ、大きく成長しています。

支部と伝道所の数は一昨年の25%以上増加し、これによって今までよりも多くの人々に福音を伝える機会があります。

1970年1月、全九州で6名——11月には福岡支部だけでも12名の人々がバプテスマを受け真理の道を歩み始めています。

3月日本西部伝道部が組織された当初、58名の宣教師が伝道部で活躍していました。現在約100名の宣教師が松工（島根県）から那覇（沖縄）にわたる地域を回復された福音の幸福を得るメッセージを伝えるために努力し続けています。

私達は、1971年が日本中の会員にとっても、世界中の会員にとっても素晴らしい年であるようにと祈りつつ奉仕しています。



吉 沢 敏 郎 兄 弟

先日、吉沢敏郎兄弟は、日本西部伝道部第一副伝道部長として、ブルース・R・マッコンキー長老によって特別に聖任されました。伝道部が組織されてから、これまでの間、渡辺隆伝道部長は副伝道部長の助けなしに働いていらっしゃいました。マッコンキー長老は日本訪問中に吉沢兄弟と面接をなさって、すぐに渡辺伝道部長の副伝道部長として聖任なさいました。

吉沢兄弟は1954年に改宗され、17年間活発に教会の事に励んでこられました。約7年、福岡支部の支部長として奉仕していらっしゃいましたが、この間には支部の建物を焼失するような事件もあり、会員のことにしても非常に問題の多い時でした。この多難な時期に主の導きの上に立って、支部を指導なさいました。

福岡の会員は、吉沢兄弟がいつも集会に出席なさっていることを知っています。ある人は掃除会でさえも姿が見えなかったことはなかったと言っています。いつでも活動的精神にあふれ、MIAにおいても、ダンスのうまさは高い評価を得ています。

吉沢兄弟は「信仰の人」という形容に最も適した人です。面接などの支部の仕事をとおして、いつも必要に応じるだけの霊的な力を持っていらっしゃいます。

第一副伝道部長に聖任されるまでは、九州地方部の日曜学校のプログラムの責任を持っていらっしゃいました。

吉沢家は二人の息子さんと、一人のかわいい娘さん、そして夫妻の5人です。吉沢夫妻は1965年にハワイ神殿を訪問なさいました。こうした経験を通して、吉沢兄弟は、日本西部伝道部において大きな活躍をなさることでしょう。

11月20日、21日、日本西部伝道部はブライマリー中央管理会会長のラヴァーン・W・パーマリー姉妹、扶助協会中央管理会のアリス・C・スミス姉妹の訪問を受ける恩恵にあずかりました。

20日の夜、スミス姉妹とパーマリー姉妹は、九州地方部の初等協会、扶助協会の指導をなさいました。パーマリー姉妹は「サドはどうなるか」の映画によって、子供達への教え方、働きかけ方を指導して下さいました。同じ時にスミス姉妹は、扶助協会が教会に与える影響について話され、また、S・ベル・スパッフォード姉妹、マリー・C・シャープ姉妹のメッセージをテープによってお伝えになり、ホーム・メーカーなどの指導をなさいました。両姉妹が残された、テープは、初等協会や扶助協会の活動に大きな影響を与えるでしょう。



スミス姉妹

パーマリー姉妹

渡辺姉妹

あけましておめでとうございます



日本東伝道部長会

ラッセル・N・堀内 伝道部長

鮫島邦彦 第一副伝道部長

柳沢俊雄 第二副伝道部長

雪 深い東北、北海道の地より年頭のあいさつをおおくりします。

日本東伝道部は、昨年にも増して成長を遂げるでしょう。そのために伝道部長会は、次の事がらを重点的に考えてゆきたいと思います。

1. 指導者養成

これは教会員が、教会の責任を通して成長し、社会において立派な模範となり有用な人間であると評画される人物を育成するということです。

2. 神殿訪問の準備

当伝道部に属するすべての会員が、神殿の儀式に参加できるよう、霊的な準備をし、教義を勉強するということです。

3. 家庭の安定

いかなることがあっても家庭が犠牲になり、不幸な状態におちいることをさげなければなりません。神の王国の最小単位としての家庭を精神的、経済的に安定させ、キリストの完全な福音により、愛がいっぱいの幸福なものにするということです。

4. 伝道所を発展させる

昨年度は、各地に伝道所が開設され、多くの人々が会員となりました。昨年に引き続き、発展の努力が重ねられますが、特に今年は、伝道所に近い支部がよく助けるというかたちをとりたいと思います。

5. 会員間のフェローシップの活発化

モルモンの会員相互の愛が深まっていったら、どんな奇跡が生ずると思いますか。これをみんなで見てみませんか。

6. 建築計画の推進

(1) 現在進行中の建物の完成

仙台、小樽支部

(2) 改築計画

山形、室蘭支部

(3) 土地の購入計画

福島支部

なお、今年度は聖さん会や日曜学校が静かで、よく整とんされたところでとりおこなわれるよう礼拝堂の管理を徹底したいと思います。

7. 長老定員会、扶助協会の福祉計画の着手

8. 各テキストの適正化

日本および日本人の実情にあう福音の教え方を考えたいと思います。

以上項目をあげて抱負をのべましたが、私たちは教会員一人一人の成長を心から願っています。この神さまの真の教会は、ある特定の人の名誉や地位あるいは、個人の利益のために存在する教会ではありません、この教会は、平会員の教会です。一人が百歩進むよりも、百人が一步進むことを願っています 私たちもガンバります。

みなさんガンバリましょう。

日本東伝道部 伝道部長会

日本伝道部だより



愛する兄弟姉妹の皆さん、

私たちはほんとうにすばらしい一年間を過ごし、また先日は大変よい大会を開催しました。数々の写真でおわかりのように、MIAダンスパーティーにおいては、大勢の出席者を迎えて楽しい時を過ごし、日曜日の集会では主のみたまを満喫しました。

一年が終り、私たちは日本の地に「主の御手」を見てきました。福音はいまだかつて伝道されたことのない各地にもたらされました。モルモン経が豊かに配布され、主の予言者が言われたごとくに、「配布された一冊のモルモン経はいつの日か一人の改宗者を得る」ことになるでしょう。このことが実現されると予言者が予言されたのです。日本の会員はふえ増して、一つのステーク部ではなく数多くのステーク部が生まれるでしょう。

この新しい年を迎えるにあたり、さらに多くのすばらしい出来事を期待しましょう。他の国々からもっと多くの宣教師が訪れ、さらに多数の日本人会員が伝道に召され、各伝道部とステーク部内に御業の進展を見ることでしょう。

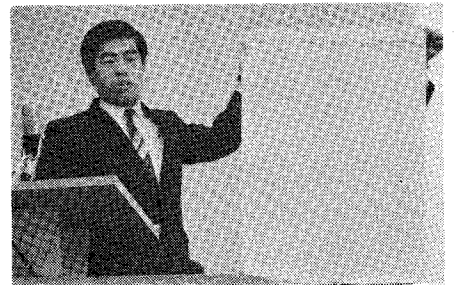
皆さんの生活を良くするためになしうることを考え、周囲の人々と権能を持てる人々を助けて下さい。私たちが今日あるのは、生活の中にイエス・キリストの福音があるおかげなのです。私たちは、主が示された人生がどのようなものかを知っています。そこで私たちはこの試しの世にあって、私たちの生活をすべて主の模範にあてはめてみる必要があります。イエス・キリストの教えによってのみ、私たちは平和と人生の幸福とを望むことができるのです。

この新しい年に主が皆さんを豊かに祝福され、皆さんの心中に正しい望みが生じますように、皆さんと共に過ごせますことを感謝いたします。皆さんと共につねに兄弟姉妹の名にふさわしいものであるようにお祈りいたします。

日本伝道部大会

「数学的には二分すると数が少なくなるが、この法則は私たちの教会にはあてはまらないようである。日本は過去2度にわたって伝道部が分割されたが、今朝この礼拝堂が一杯になっていることからして、数が増えつつあるようである」これは最近開かれた日本伝道部大会でのウォルター・R・ビルズ部長の言葉です。大会には443人の会員と求道者が出席しました。旧交を暖め、多くの新しい友とも会うという感激あふる大会でした。本大会で新しいプログラムが発表されました。これはクリスマス・モルモン経プログラムであって、クリスマスの間に一人につき5冊のモルモン経を配布するものです。イエス・キリストの福音以上にすばらしい贈物があるでしょうか。

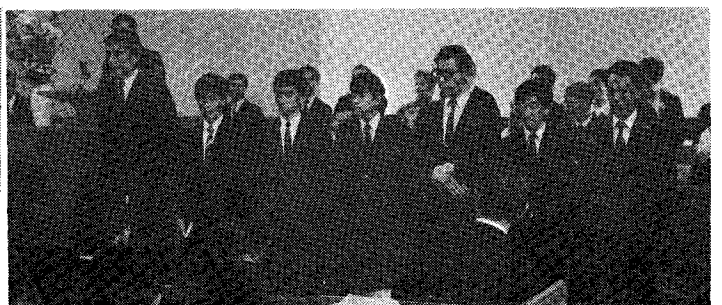
今大会には多くの新しい顔が見られました。わづか3カ月前に開かれた沼津から16名の会員と求道者が出席しました。また7名がメルケゼデク神権の長老職に聖任され、ますます定員会を強化することとなりました。また兄弟と姉妹は、それぞれ神権会と扶助協会の集会で大いなる励ましを与えられたのです。全集会を通じて、参加者はそれぞれの支部と伝道地においてさらに大いなる働きをなさうとの意欲と決意に燃えて帰途についたのです。



クリスマス・モルモン経プログラムについて語る神田兄弟



大会に出席された沼津の聖徒たち



大神権をうけられる兄弟たち

1971新年明けましておめでとうございます

「心をつくし、精神をつくし、
思いをつくして、主なるあな
たの神を愛せよ」。

「自分を愛するようにあなた
の隣り人を愛せよ」

〈マタイによる福音書22章37～39〉



今年も神の王国建設のために
一致協力全力を尽して頑張り
ましょう。

〈日本中央伝道部長会〉

伝道部長：岡崎行雄
第一副：鈴木正三
第二副：中村晴兆
書記：石井英一

近畿中国地方部長会

地方部長：中野正之
第一副：矢野義高
第二副：宮川淳
書記：志茂好通



近畿四国地方部長会

中部地方部長会



〈近畿中国地方部の支部長会〉

阿倍野支部

支部長：神成弘昭
第一副：今井博文
第二副：藤崎尚



西宮支部

〈中部地方部の支部長会〉

堺支部

支部長：坂本頼彦
第一副：坂本義明
第二副：藤井茂雄



尼崎支部

名古屋支部

支部長：中村武史
第一副：福山照夫
第二副：池田茂美



名古屋北支部

神戸支部

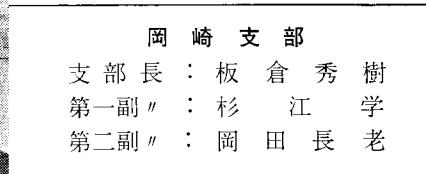
支部長：神尾昇一
第一副：水野敬一
第二副：長浜修



京都支部

岡崎支部

支部長：板倉秀樹
第一副：杉江学
第二副：岡田長老



東大阪支部

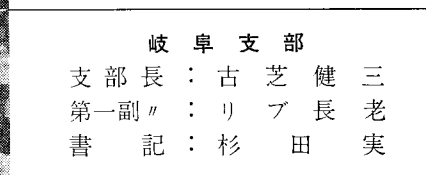
支部長：小林毅
第一副：平川友正
第二副：柴田拓美



松山支部

岐阜支部

支部長：古芝健三
第一副：リブ長老
書記：杉田実



岡山支部

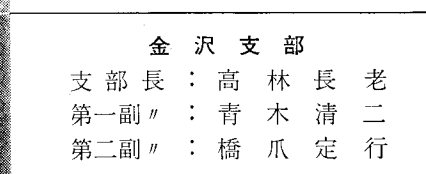
支部長：福田千尋
第一副：溝内俊夫
第二副：荒木義一



岡町支部

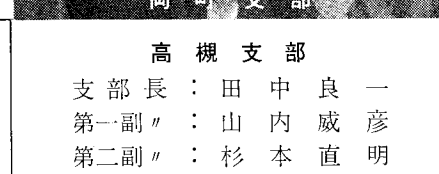
金沢支部

支部長：高林長老
第一副：青木清二
第二副：橋爪定行



姫路支部

支部長：釜石一朝彦
第一副：新谷匡彦



高槻支部

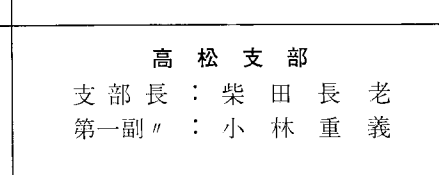
支部長：田中良一
第一副：山内威彦
第二副：杉本直明

小松支部

支部長：中村利雄
第一副：北野智之

吹田支部

支部長：杉村裕一
第一副：守谷歓二
第二副：林宗光



高松支部

支部長：柴田長老
第一副：小林重義

高知支部

支部長：米村長老

もし我々に起こっていたら……

リチャード・L・エバンズ

人生からいかに罪惡を取り除けるかについての質問に答えて、古代アテネのソロンは言った。「善人も悪人も同様に他人の罪惡の故に義憤を感じる時に、罪惡はすべてなくなる。」¹「私が現在あるのは神様のお蔭です」という言葉を我々はよく耳にしてきた。病氣、事故、攻撃の危険、助けの必要、文字通りだれか我々を救ってくれる人が必要な時など、種々の環境のもとで、我々はみな神の恵みをうけることができた。しかし、我々は熱心に助けを求める人々になんと無関心であり、ひどい苦しみの状態にある人々をいかに無視してきたことであろう。ジョージ・バーナード・ショウ²は次のように言っている。

「人間に対する最大の罪は人々を憎むことではなく、彼らに関心を示さないことである。」一般に人々やその問題について多くの関心がよせられてはいるが、それにもまして、人々の緊急の必要に個人的に応えることにあまりにも無関心すぎることは明らかである。

時々、我々は問題に巻き込まれることを恐れ、冷淡な言訳をして他人を助けることを拒む。強盗に打たれ、略奪されて死にかかった男に関する救い主のたとえ話はあまりにも度度繰返えされている。そして数人が「向う側を通して」³行って、見て見ないふりをした—しかし、我々はその場面から良きサマリヤ人を見逃しがちである。我々は「人は無きずの島ならず」というジョン・ダン⁴の言葉を思い出す。すなわち、他人に起こると同時に我々に何かが起こらないという理由だけで、我々がそのことから免れているというわけではない。もしも狂犬が鎖からはなれるなら、だれがかまれるかわからない。我々は他人に起こることについて、のんびりとかまえてはいられない。我々に関係がないと言って安心をよそおってはいられない。ある意味で、我々のだれかに起こることは、我々すべてに起こるのであり、我々が秩序ある安全な社会にある限り、困難にある人々は助けられねばならない。また我々は、他人に起こったことが、もし我々に起こっていたら、どう感じるかということを忘れてはならない。また他人がなぜ顔をそむけ、見て見ぬふりをし、向う側を通して行くのかといふかしく思うことも忘れてはならない。「善人も悪人も同様に他人の罪惡の故に義憤を感じる時、罪惡はすべてなくなる」。

1. ソロン (638-558 B.C.) アテネの立法者。
2. ジョージ・バーナード・ショウ、アイルランド生まれのジャーナリスト、批評家、劇作家
3. ルカ 10:30-37参照。
4. ジョン・ダン (1573-1631) 17世紀の瞑想家、英国の詩人、牧師

聖徒の道

1971年1月20日発行

発行人兼編集人 ウォルター・R. ビルス

発行所 東京都港区南麻布5-8-10

末日聖徒イエス・キリスト教会 電話(442)7459

印刷所 株式会社上野印刷

定価 100円

予約 一年間 1,000円 (外国4ドル50セント)